

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

「ビューネクスト」高校版

# VIEWnext

2021 April

創刊号

# 4

特集

## 新教育課程

## 編成

ブラッシュアップに

向けた

3つの視点

新課程に向けて描く

「学校教育デザイン」

埼玉県立鴻巣高校

発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び 授業実践

現代文

北海道・市立札幌平岸高校

対馬光揮

地理

宮城県宮城第一高校

三浦学

Photo Session at Cover

山形県立  
山形東高校



# VIEWnext 高校版

# 創刊

## 創刊のご挨拶

平素は、弊社並びに弊社の学校事業活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

1974年に前身の『進研ニュース』が産声を上げ、学校現場や教育機関にお届けしてまいりました弊社の教育情報誌『VIEW 21』が、2021年4月、『VIEW next』へと名称を変更し、新たなスタートを切りました。

現代は、新型コロナウイルスの感染拡大に象徴されるように、何が起こるのか、予想がつかない時代です。しかし、予測困難だからこそ、今をしっかりと見つめ、自らの手で未来を描くことが求められるのではないのでしょうか。

21世紀のその先も、学校や先生方の今に寄り添い続け、ともに学校教育の未来を描く、そうした学校教育のパートナーとなることを目指すという決意を示すべく、新しい名称を『VIEW next』とすることにいたしました。そして、学校や先生方、教育委員会の皆様はもちろん、保護者や地域など、「社会に開かれた教育課程」実現の担い手と言われるすべての方々にとって、学校現場の今を捉え、未来を描く際によりどころのような存在となることを目指してまいります。

本誌『VIEW next』高校版におきましては、教育課題の多様化を踏まえ、多角的な情報を提供するとともに、各情報が、それを必要とする先生方にしっかりとお届けできるよう、対象読者を明確化したコーナー・誌面構成にいたしました。また、ご校務・ご指導でお忙しい先生方にとっても読みやすい誌面となるよう、デザインの面でも様々な工夫を施しております。

さらに、本誌を基点としたウェブコンテンツを一層充実させることで、情報発信の質・量の向上を図るとともに、ウェブの特長の1つである速報性を生かし、情報発信のスピードも向上させてまいります。

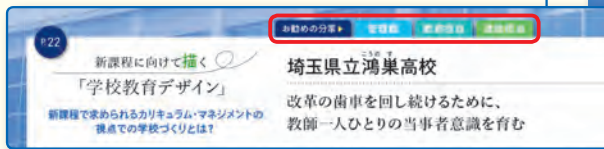
そうした様々な形での情報発信活動の中で、学校や生徒の今を捉え、教育の未来につながるメッセージを先生方と一緒に創造し、発信することを目指す『VIEW next』にご期待をいただくとともに、引き続きのご指導、ご教示のほど、よろしくお願い申し上げます。

# 情報発信方針

VIEWnext 高校版は、新しいコーナー構成・誌面デザインで、  
高校教育の今を伝え、未来を描いていきます

◎巻頭特集は、学校現場の今の課題や関心をテーマとして取り上げるとともに、各号のテーマの次なる展望を示す「本特集テーマのnext」のコーナーを末尾に設置。

◎連載コーナーは、『学校全体向け』の For School Section と『教師個人向け』の For Teacher Section に大きく2区分化。さらに、各コーナーの対象読者を明確化することで、情報のリーチ力を向上。



各セクションの扉ページには、どの立場・分掌の先生にとって特にお役に立ていただけるコーナーなのかを、コーナーごとに表示。お忙しい時などは、ご自身の立場やご所属の分掌が表示されたコーナーを中心にお読みください。

ウェブサイトでの情報発信をより充実させることで、  
情報発信の質・量・スピードの向上を図ります



ベネッセ教育  
総合研究所の  
ウェブサイト内に  
開設

◎2020年度に立ち上げたウェブコーナー『VIEW21 express』を『VIEW n-express』に改称するとともに、以下のように発信コンテンツを充実。

- ①『VIEW next』高校版・教育委員会版の記事の先行公開
- ②『VIEW next』高校版・教育委員会版の記事の補足記事・補足動画
- ③『VIEW n-express』オリジナルコンテンツ
- ④「若手教師・教育創造 MTG」活動リポート
- ⑤速報的に学校現場に届けるべき情報

VIEWnextのLINEをご登録いただければ、  
VIEWn-expressやVIEWnextの電子ブックに、**ダイレクトにアクセス**できます！

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中！

VIEWnextや教育に関する最新情報をタイムリーにお届けします。  
友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。  
\*友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの「友だち追加」>「ID 検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



# 成

## 3 特集

### 新教育課程編成

ブラッシュアップに向けた3つの視点

#### 21 For School Section

- 22 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」  
埼玉県立鴻巣高校
- 26 —疑問や課題を解決！ 実践につながる！— 新課程レポート  
秋田県立湯沢高校
- 30 指導変革の軌跡  
大阪府・私立興國高校
- 34 輝く学年団を訪ねて  
北海道・私立札幌光星中学校・高校 高3学年団
- 38 学校危機管理 基礎講座  
テーマ 学校の危機管理の基本

#### 41 For Teacher Section

- 42 発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践
- 42 現代文 北海道・市立札幌平岸高校 対馬光揮
- 46 地理 宮城県宮城第一高校 三浦 学
- 50 SDGsの視点で見る大学の学び
- 50 解説 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 50 目標10 人や国の不平等をなくそう
- 52 大学の学び 目標9 高知工科大学 システム工学群  
知能機械工学専攻 知能ロボティクス研究室
- 54 目標10 東洋大学 社会学部 社会福祉学科 加山ゼミ
- 56 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説  
トレンド・ワード DX (デジタルトランスフォーメーション)
- 60 誌上で見学 学びのnext  
言語技術教育 東京都・私立芝浦工業大学附属中学高校

- 40 データから考える！ 指導のnext  
ビックアップデータ ベネッセコーポレーション「スタディーサポート」
- 64 Reader's VIEW

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス 編集協力／(有)ペンダコ 執筆協力／田中祥子、中丸 満、二宮良太 撮影協力／熱田智寿佳、荒川 潤、筒井岳彦、ヤマグチイッキ

※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。 ©Benesse Corporation 2021

# 新教育課程編

## ブラッシュアップに向けた3つの視点

新学習指導要領の実施まで1年を切り、2022年度入学生の教育課程の編成は大詰めの段階にある(\*1)。  
編成上の課題として学校現場から寄せられている、

「教師間で、教科の枠を超えた教育課程に対する理解が不足している」

「所属する教科の都合を主張し、学びの変化に対する他教科との連携についてイメージを共有できていない」

『歴史総合』『公共』『情報』など、1年次で履修させたい必修科目が多くて悩んでいる」

といった声(\*2)からは、各校の苦慮がうかがえる。

今号では、新学習指導要領の要点を改めて整理した上で、2校の実践事例と

新教育課程編成に関するデータを基に、自校の編成案をさらに磨き上げるために必要な視点を考える。

毎号の特集テーマの次なる展望を示す「本特集テーマの next」では、

多くの学校が新教育課程編成の次に取り組むべき課題として捉えている「学習評価」を取り上げる。

\*1 ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」の速報結果(2021年2~3月にウェブとファクスで実施。2021年3月12日時点の回答者233人)では、75%の学校が編成終盤か教科間の調整段階と回答している。

\*2 『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果(アンケートは、2021年2月にウェブとファクスで実施)。

### P.4 新教育課程の編成 課題整理

新教育課程の編成に向け、新学習指導要領の要点を改めて押さえる

### P.6 新教育課程の編成 事例1 山形県・私立山形城北高校

学校や生徒の課題を基に教育活動を見直し、新教育課程への移行を機に、学校改革を推進

### P.10 新教育課程の編成 事例2 山梨県立吉田高校

資質・能力ベースの教育目標に基づき、教科・科目を超えて生徒の成長を支える

### P.14 ベネッセ文教総研 解説

新教育課程編成で必要な視点・考え方

### P.18 本特集テーマの next

長野県「学びの指標」から考える これからの学習評価のあり方とは

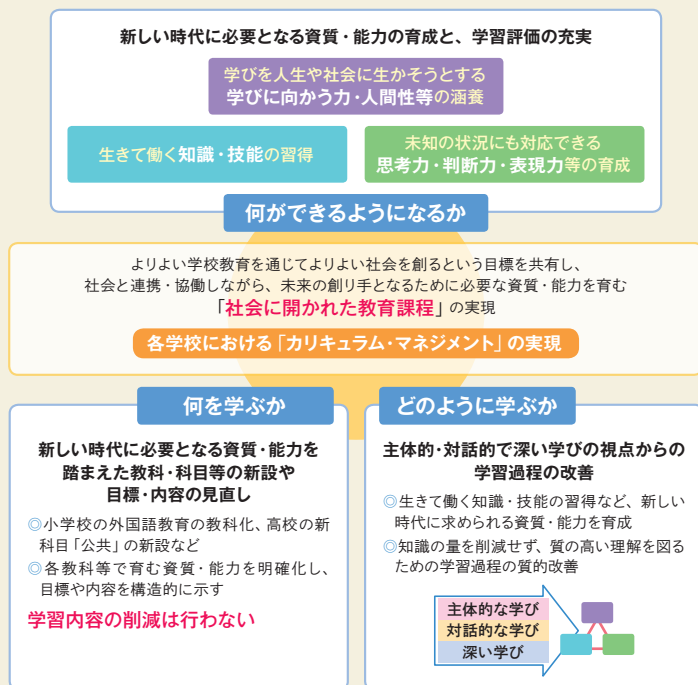
長野県教育委員会事務局 高校改革推進役 内堀繁利 / 東京都・私立かえつ有明中・高校 副教頭 佐野和之 /  
広島県・私立英数学館中学・高校 副校長 土屋俊之 / ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 小村俊平

図1 「社会に開かれた教育課程」とは

- 1 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- 2 これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- 3 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

※中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成。

図2 学習指導要領改訂の方向性



※中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成。

# 新教育課程の編成に向け、 新学習指導要領の要点を改めて押さえる

2022年度入学生への教育課程の編成にあたっては、その前提となる新学習指導要領のポイントを押さえておくことが重要だ。ここでは、「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力」、教科・科目等及び標準単位数の変更点について見ていく。

新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、両者が連携・協働して子どもたちに必要な資質・能力を育むことを目指す「社会に開かれた教育課程」（図1）が、理念として掲げられた。

その実現に向けた枠組みを示すため、教育課程の基本事項を示す「総則」を抜本的に見直し、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」など、教育課程の編成に必要な事項を整理して提示。また、「何ができるようになるか」という点では、各教科等の学習を通して育まれる資質・能力や、

図3 高校の各学科に共通する各教科・科目および総合的な探究の時間並びに標準単位数

教科	科目	標準単位数	必修修科目
国語	現代の国語	2	○
	言語文化	2	○
	論理国語	4	
	文学国語	4	
	国語表現	4	
	古典探究	4	
地理 歴史	地理総合	2	○
	地理探究	3	
	歴史総合	2	○
	日本史探究	3	
	世界史探究	3	
公民	公共	2	○
	倫理	2	
	政治・経済	2	
数学	数学I	3	○2単位まで減可
	数学II	4	
	数学III	3	
	数学A	2	
	数学B	2	
	数学C	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を含む2科目または基礎を付した科目を3科目
	物理基礎	2	
	物理	4	
	化学基礎	2	
	化学	4	
	生物基礎	2	
	生物	4	
	地学基礎	2	
地学	4		
保健 体育	体育	7~8	○
	保健	2	○
芸術	音楽I	2	}
	音楽II	2	
	音楽III	2	
	美術I	2	
	美術II	2	
	美術III	2	
	工芸I	2	
	工芸II	2	
	工芸III	2	
	書道I	2	
書道II	2		
書道III	2		
外国語	英語コミュニケーションI	3	○2単位まで減可
	英語コミュニケーションII	4	
	英語コミュニケーションIII	4	
	論理・表現I	2	
	論理・表現II	2	
	論理・表現III	2	
家庭	家庭基礎	2	} ○
	家庭総合	4	
情報	情報I	2	○
	情報II	2	
理数	理数探究基礎	1	
	理数探究	2~5	
総合的な探究の時間		3~6	○2単位まで減可

注) 赤い下線は、科目構成に変更があるもの。編集部による加筆。  
 ※文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編」を基に編集部で作成。

図4 新学習指導要領に対応した大学入試の初実施(2025年度入試)までのスケジュール

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
中学校新教育課程	高校新教育課程→		
高3	高3	高3	高3
高2	高2	高2	高2
高1	高1	高1	高1
[5~6月]・検定済み教科書見本公開 [6~7月]・教科書採択 [夏ごろ]・新学習指導要領に対応した大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告 [10月]・指導書	・新教育課程開始 ・指導要録の改善 ・各大学の選抜予告発表		[夏ごろ]・2025年度大学入学者選抜実施要項発表 [年度末]・2025年度大学入試実施

■ 現行教育課程生  
■ 新教育課程生

※ベネッセ文教総研作成。

学習の基盤となる資質・能力など、あらゆる資質・能力に共通する要素が、育成を目指す資質・能力の3つの柱として整理された(図2)。

高校の新教育課程において、卒業までに履修させる単位数は、現行の教育課程と同じ74単位以上。教科・科目の構成は、社会で生きていくために必要な力を共通して身につける「共通性の確保」と、学校の創意工夫を生かすための裁量や生徒の選択の幅としての「多様性への対応」を軸に見直され、「国語」「地理歴史」「公民」「数学」「外国語」「家庭」「情報」「理数」「総合的な探究の時間」について、変更や新設があった(図3)。

以上が、新教育課程の編成の前提となる。

なお、新学習指導要領に対応した大学入試は、2025年度入試が最初となる(図4)。その実施に向けて、21年夏ごろには、新学習指導要領に対応した実施要項の見直しに係る予告が発表される。22年度には各大学の選抜予告が、24年度には25年度大学入学者選抜実施要項が発表される予定だ。

## 事例 1

# 学校や生徒の課題を基に教育活動を見直し、 新教育課程への移行を機に、学校改革を推進 山形県・私立山形城北高校

少子化による入学者数の減少や生徒の学力の多様化といった課題に直面している山形県・私立山形城北高校。より魅力的な学校づくりに向け、学校改革を推進するための軸を定めようと、新教育課程への移行を機にグランドデザインを策定し、各科・コースの特徴を生かした教育課程を編成した。

■ ■ ■ 多様な生徒が学び合うよさを  
生かすグランドデザイン

山形県・私立山形城北高校は、特進科と普通科（進学教養・幼教福祉・スポーツ総合の3コース）を設置し、国公立大学や難関私立大学への進学のほか、幼稚園教諭や介護福祉士など、多様なキャリア形成を支える教育活動を展開している。同校は、新教育課程を機に教育活動を刷新しようと、2020年度から改革を進めてきた。その背景には、少子化による入学者数の減少や生徒の学力の多

様化があると、20年度に着任した大沼敏美校長は説明する。

「少子化が進行する状況で入学定員を維持しようとすると、入学者の学力差はそれまで以上に開きやすくなります。そこで、多様な生徒一人ひとりの成長を保障するとともに、科・コースごとに表面化していた様々な課題に対応して、より魅力のある、選ばれる学校づくりに取り組む必要があります。その第一歩として育成を目指す資質・能力を設定して、教育方針を明確にしたのです」

最初に着手したのは、グランド

図1 グランドデザイン（抜粋）

- 重点目標
- ① ICTを活用した個別最適な学びの提供
  - ② 社会とつながる協働的な学びの実現

### （1）山形城北高校で学ぶと、何が身につくの？

本校では、すべての学習活動で以下の3つの柱に基づく学びを推進し、社会とつながる協働的な学びを実現します。

#### 【資質・能力の3つの柱】

- ① 実際の社会や生活で役立つ知識・技能の習得
  - ② 未知のことにも対応できる思考力・判断力・表現力等の養成
  - ③ 学びに向かう力と人間性（主体性・多様性・協働性等）の涵養
- また、生涯にわたり学び、成長を続けていく力として、学校教育全体を通して、非認知スキルの養成にも力を入れます。

#### 【OECDによる非認知スキル（社会情動的スキル）】

- ① 目標を達成する力（忍耐力、意欲、自己制御、自己効力感）
- ② 他者と協働する力（社会的スキル、協調性、共感性、信頼）
- ③ 情動を制御する力（自尊心、自信、問題行動のリスクの低さ）

（中略）

### （3）山形城北高校では、どんな教育に力を入れるの？（「教育の重点」）

- ① 論理言語力の育成
- ② 科学リテラシーの養成
- ③ 外国語教育の推進とグローバル化への対応
- ④ 主権者教育・消費者教育・ふるさと教育・SDGsの推進
- ⑤ 道徳教育の充実
- ⑥ 健康教育・安全教育の推進
- ⑦ 特別支援教育の充実

※学校資料を基に編集部で作成。



校長  
**大沼敏美** おおぬま・としみ  
教職歴39年。同校に赴任して1年目。



副校長  
**千葉宏宣** ちば・ひろのぶ  
教職歴31年。同校に赴任して31年目。



教頭  
**細野敏明** ほその・としあき  
教職歴34年。同校に赴任して34年目。



教務課長  
**山村美和** やまむら・みわ  
教職歴25年。同校に赴任して16年目。数学科。



特進科長  
**太田英司** おおた・えいじ  
教職歴16年。同校に赴任して16年目。外国語科（英語）。

#### 学校概要

**設立** 1926（大正15）年  
**形態** 全日制／特進科・普通科／共学  
**生徒数** 1学年約340人  
**2021年度入試合格実績（現役のみ）** 国公立大は、山形大、新潟大、青森公立大に7人が合格。私立大は、東北学院大、東北芸術工科大、東北文教大、獨協大、北里大、駒澤大、東海大、東洋大、明治大、同志社大などに延べ116人が合格。

デザインの方針だ。20年8月、全教師にアンケートを実施し、生徒に育成したい資質・能力を調査した。すると、これからの社会を力強く生きるために必要な資質・能力として、忍耐力や協調性、自尊心などが挙げられた。その結果を踏まえて、育成を目指す資質・能力として、文部科学省の「資質・能力の3つの柱」と、OECDが提唱する「非認知スキル（社会情動スキル）」を設定した（図1）。

「本校の生徒は、大学進学が5割、専門学校進学が3割、就職が2割と、日本全体の高校生の進路状況とほぼ重なります。学力層も希望進路も多様な生徒が混在する

ため、自校で育成を目指す資質・能力は、学校独自に策定するのではなく、汎用性の高い資質・能力を設定しました。その上で、一人ひとりにとって重要な『資質・能力の3つの柱』や『非認知スキル』とは何か、それらを育成するために行うべき教育活動は何かなどの議論に時間をかけたいと考えました」（大沼校長）

その目標達成に向けた学びの方針と、重点を置く7つの教育を設定し、ブランドデザインを完成させた。学校の進む方向性が明確になったことで、議論は一層活発になったと、細野敏明教頭は語る。「それまでは、改善策が学校全体

の方針に合致しているかどうか実感しづらく、議論が進みにくいことがありました。ブランドデザインという明確なよりどころができたことで、学校全体がまとまり、前進しやすくなったと感じます」

#### コース混合クラスの設置など、生徒の成長を促す環境を整備

20年12月には、再び全教師にアンケートを実施。コース間の学力差の是正をねらいとして、新教育課程では、普通科の1年次に限り、3コース混合クラスに変更する案に意見を求めた。教務課長の山村美和先生は、こう述べる。

「多様な生徒が学び合い、切磋琢磨する環境を整えることで、生徒全員の学力を向上させるといってねらいがありました。例えば、スポーツ総合コースには、部活動を頑張る生徒が多いのですが、将来に向けて学習に励む他コースの生徒に接することで、スポーツ総合コースの生徒も学習へ意識が向くといった変化が期待できます」

その案への賛否は分かれた。賛成派からは「下位層の底上げが図れる」と、反対派からは「上位層が伸びにくくなる」と、それぞれの理由が挙げられた。大沼校長は、それらの意見をブランドデザインに照らし合わせて検討し、「育てたい生徒像」に掲げた「多様性を尊重」という方針を重視して混合クラスの導入を決定。さらに、入学時点では将来を決めかねている生徒が多い状況を考慮し、2年生進級時にコース変更を可能にした。

「改革によって、学校に新しいエネルギーを生み出したといった考えがありました。双方の意見と判断理由を明記したプリントを配布して私の考えを伝えると、先生

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

図2 山形県・私立山形城北高校 2022年度入学者 教育課程 検討案(普通科キャリア探究コース、特進科)

単位数	普通科 キャリア探究コース						特進科					
	1年		2年		3年		1年		2年		3年	
	幼児教育系	福祉系	情報キャリア系	幼児教育系	福祉系	情報キャリア系	文系	理系	文系	理系	文系	理系
1	現代の国語(2)	論理国語(2)		論理国語(2)		現代の国語(2)	論理国語(2)		論理国語(2)			
2												
3	言語文化(2)	文学国語(3)		国語表現(3)		言語文化(2)	古典探究(3)		古典探究(3)			
4												
5	歴史総合(2)					歴史総合(2)						
6		公共(2)		日本史探究/世界史探究(2)			公共(2)		公共(1)		地理探究(4)	
7	地理総合(2)					地理総合(2)			政治・経済(3)			
8		日本史探究/世界史探究(2)		政治・経済(2)			世界史探究(4)		日本史探究(4)		数学II(4)	
9							数学II(4)		世界史探究(3)		日本史探究(3)	
10	数学I(3)	数学II(3)		数学II(3)		数学I(3)	数学II(4)		数学II(4)		数学II(4)	
11							数学B(1)		数学C(1)		数学B(2)	
12	数学A(2)	科学と人間生活(2)		科学と人間生活(2)		数学A(2)	数学II(4)		数学III(1)		数学II(4)	
13							数学II(1)		数学II(4)		数学B(2)	
14	化学基礎(2)					化学基礎(2)	物理基礎(2)		数学B(2)		数学C(2)	
15		体育(2)		体育(3)			数学B(2)		物理(3)		生物(3)	
16	生物基礎(2)	保健(1)				生物基礎(2)	化学基礎(2)		数学C(1)		数学B(2)	
17							数学C(1)		化学(4)		数学C(2)	
18	体育(2)	学校設定ダンス(1)		学校設定人文社会(2)		体育(2)	生物基礎(2)		化学基礎(1)		数学C(2)	
19		学校設定器楽(2)		社会福祉基礎(2)			生物基礎(2)		生物基礎(2)		物理(4)	
20	保健(1)			情報処理(3)		保健(1)	化学基礎(2)		化学(4)		物理(4)	
21	音楽I・美術I(2)	学校設定造形(2)		コミュニケーション技術(2)		音楽I・美術I(2)	体育(2)		化学基礎(2)		生物(4)	
22									化学基礎(2)		生物(4)	
23	英語コミュニケーションI(4)	英語コミュニケーションII(3)		学校設定造形(2)		英語コミュニケーションI(4)	生活支援技術(2)		学校設定基礎数学(2)		保健(1)	
24							学校設定基礎数学(2)		保健(1)		化学(3)	
25							英語コミュニケーションII(3)		体育(3)		化学(3)	
26		学校設定実践英会話/韓国語/消費者教育(1)		英語コミュニケーションII(3)			英語コミュニケーションII(3)		保健(1)		体育(2)	
27	家庭基礎(2)	情報I(2)		学校設定実践英会話/韓国語/消費者教育(1)		家庭基礎(2)	英語コミュニケーションI(4)		英語コミュニケーションII(4)		英語コミュニケーションIII(4)	
28							英語コミュニケーションI(4)		英語コミュニケーションII(4)		英語コミュニケーションIII(4)	
29	総合的な探究の時間(1)	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)	
30	LHR	LHR		LHR		LHR	LHR		LHR		LHR	
31							論理・表現I(2)		論理・表現II(2)		論理・表現III(3)	
32							家庭基礎(2)		情報I(2)		論理・表現III(3)	
33												
34	総合的な探究の時間(1)	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)	
35	LHR	LHR		LHR		LHR	LHR		LHR		LHR	

注1) 学校設定：学校設定科目。注2) ( )内の数字は単位数。 ※学校資料を基に編集部で作成。

方は皆、決定に同意してくれました。初めにアンケートで全教師に意見を聞いたことで、学校改革への参画意識が生まれ、自分の考えとは異なる結果になっても納得で

きたのだと思います(大沼校長) 特進科の現行の教育課程では、土曜日も授業があり、部活動に参加できないことが、生徒募集における課題となっていた。特進科に入学で

きる学力を備えている生徒が、部活動に参加したいがために普通科に入学し、学力を伸ばし切れないケースも見られた。千葉宏宣(ひろのぶ)副校長は次のように説明する。

「全国の特進科を持つ高校を視察すると、多くの学校が学習と部活動を両立させていました。それらの学校にならない、本校の特進科でも、新教育課程では土曜日の授

業を課外とし、希望者は部活動に参加できるようにします」

特進科の新教育課程は、現行の教育課程から4単位減の35単位(図2)とし、減少分は課外授業で補完するとともに、授業改善を一層進め、指導の質向上を図る方針とした。特進科長の太田英司先生は、次のように述べる。

「単位数を減らすことが、生徒の学力にマイナスの影響を与えるとは捉えていません。これまでは授業の予習・復習で手いっぱいの子供もいましたが、少し時間に余裕が生まれる分、生徒自身が課題を見つけてそれに取り組むよう、指導していく考えです」

### ■ 各科・コースの特性を生かした特色ある教育課程を編成

新教育課程の検討は、学校改革と同時進行で行われた。

「新教育課程を検討する中で気づいた重要な点をグランドデザインに反映させるなど、目標と手段を柔軟に行き来しながら検討を進めました」(大沼校長)

例えば、「SDGs(\*1)に

ついてもっと学びたい」という生徒会からの要望を受け、グランドデザインの「教育の重点」に「SDGsの推進」を追記するとともに、SDGsとかかわりの深い「地理総合」を1年次に配置した。

また、現行の教育課程でも語彙力や読解力を重視してきたが、それらの力が十分に身につけておらず、教科学習の課題になっていた。そこで、「教育の重点」の1つに「論理言語力の育成」を掲げ、「Liers理論言語力検定」(\*2)を導入し、新教育課程では、授業や朝学習の時間に検定用のワークブックなどに組み入れることにした。

「就職で学校推薦を得るには3級以上」「大学進学で学校推薦を得るには2級以上」の取得を原則とし、検定を企業や大学に対する学力保障の1つとする考えだ。

さらに、各科・コースの特徴を考慮して新教育課程を編成した。「グランドデザインで、すべての生徒への育成を目指す資質・能力を明確にしたことで、軸をぶらさずに科・コースの特徴に合わせ

た教育活動について議論することができました」(細野教頭)

例えば、国語では、スポーツ探究コース(現・スポーツ総合コース)とキャリア探究コース(現・幼教福祉コース)の生徒は、就職試験や総合型選抜・学校推薦型選抜で志望理由書などを書く機会が多いため、3年次に「国語表現」を配置し、加えて、「文学作品に触れさせて感性を育みたい」という国語科教師の思いから、「文学国語」を2年次に配置した。特進科とアカデミック探究コース(現・進学教養コース)では、大学入試への対策として、2・3年次に「古典探究」を配置した。

キャリア探究コースでは、生徒の多様なキャリア形成を支えるため、「器楽」「造形」「実践英会話」「韓国語」「消費者教育」など、様々な学校設定科目を設置した。「情報I」については、様々な意見が交わされた。同科目における学習内容の高度化が見込まれることから、「数学I」「数学A」を履修してからの方がプログラミングやデータ処理の理解が深まると

いった見解に加え、大学入学共通テストの対策や講師の確保などの点も含めて総合的に判断し、2年次に配置した。特進科では、3年次の課外授業を「情報I」の学習内容と連動させる方針だ。

### ■ 手段が目的化しないように学校改革を継続

同校の学校改革は進行形であり、今後も様々な検討を重ねていく。例えば、「総合的な探究の時間」は、東北芸術工科大学と連携し、地域のヒト・モノ・コトに目を向けさせ、自分ごととして問題解決に取り組む探究学習を模索している。常に「手段を目的化させないこと」を意識して改革を進める考えだ。

「手段であるICT教育や教科横断型学習も、目的化させないよう充実に図っていきます。教育の目的は生徒一人ひとりの成長にあり、学びのプロセスそのものに意義があるということを見失わずに、必要に応じてグランドデザインも見直ししながら、学校改革を推進していきます」(大沼校長)

\*1 Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。\*2 ベネッセコーポレーションの検定の1つ。社会で活躍するために必要な力を「語彙運用力」「情報理解力」「社会理解力」の3つの領域で育成・測定する。

## 事例2

# 資質・能力ベースの教育目標に基づき、 教科・科目を超えて生徒の成長を支える 山梨県立吉田高校

2017年度、資質・能力ベースの学校教育目標を策定し、あらゆる教育活動を改善してきた山梨県立吉田高校。その過程で形成された教師間の共通認識を土台に、教科・科目の枠を超えて議論し、生徒のさらなる成長を支える教育課程を編成した。

■ ■ ■ 教育目標を生徒・保護者とも共有し、その達成を目指す

2017年度、山梨県立吉田高校は、これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を検討し、高校3年間を通して8つの資質・能力を身につけることを目標とする「吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高GP）」を策定した（図1）。そして、その達成に向け、年2回行う研究授業を通じて授業改善を図ったり、学校行事を効果検証に基づいて精選したりと、あらゆる教育活動の質向上を

推進してきた。廣瀬志保<sup>ひろせ</sup>教頭は、次のように説明する。

「まず、吉高GPに基づき、現行の教育課程で生徒の資質・能力を確実に伸ばす教育活動を整えてから、その延長線上で新教育課程を編成するというビジョンを持って取り組んできました。学校行事を始めとする教育活動の精選には多くの検討を要しましたが、そうした中で本校が目指すべき方向が明確化されていきました」  
そのような学校改革のプロセスを通じて教師の姿勢が大きく変わったと、古屋勇人<sup>ふるやゆうじん</sup>校長は述べる。

図1 「吉田高校グラデュエーション・ポリシー（吉高GP）」

- |   |       |                              |
|---|-------|------------------------------|
| 1 | 自己肯定力 | 短所も含めて、自分を認める力を身につけます        |
| 2 | 傾聴力   | 他者の意見を謙虚に聴く習慣を身につけます         |
| 3 | 分析力   | 事実を客観的に分析する習慣を身につけます         |
| 4 | 思考力   | 物事を鵜呑みにせず、「何故か」を考える習慣を身につけます |
| 5 | 発信力   | 自分の考えを、わかりやすく他者に伝える方法を身につけます |
| 6 | 想像力   | 未来（結果）を考え、想像する力を身につけます       |
| 7 | 創造力   | 課題を解決する方法を創造する力を身につけます       |
| 8 | 行動力   | 自身の考えに基づき、行動する力を身につけます       |

※学校資料を基に編集部で作成。



校長  
**古屋 勇人** ふるや・はやと  
教職歴36年。同校に赴任して1年目。



教頭  
**廣瀬 志保** ひろせ・しほ  
教職歴29年。同校に赴任して3年目。



教頭  
**谷内 路久** やない・みちひさ  
教職歴33年。同校に赴任して1年目。



教務主任  
**東 一孝** あずま・かずたか  
教職歴29年。同校に赴任して19年目。英語科。



「総合的な探究の時間」担当  
**木下 花子** きのした・はなこ  
教職歴19年。同校に赴任して5年目。国語科。



理数科担任  
**有野 将太** ありの・しょうた  
教職歴7年。同校に赴任して3年目。数学科。

#### 学校概要

**設立** 1937(昭和12)年  
**形態** 全日制/普通科・理数科/共学  
**生徒数** 1学年約240人  
**2021年度入試合格実績(現役のみ)** 国公立大は、東北大、筑波大、お茶の水女子大、東京大、山梨大、京都市大、大阪大などに97人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大などに延べ573人が合格。

「教師一人ひとりが、担当教科・科目や学年、分掌など、自身の役割や立場と吉高GPの視点から、教育内容が生徒の成長に結びついているかを自然と考えるようになっていきました。3年間で育成を目指す資質・能力を俯瞰して捉えているからこそ、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で臨時休業となり、授業時数が減った際にも、冷静に先を見通し、授業内容を調整するなどの対応ができたのだと思います」

生徒や保護者はもちろん、同校を志望する中学生とその保護者にも、吉高GPを説明する。吉高GPによって、生徒は目的意識を持つて生き生きと学ぶため、卒業後の進路面も、地域の期待に十分に応える実績を上げ続けている。

■ ■ ■  
**全校で生徒を育む視点で、教科・科目の枠を超えて議論**

新教育課程編成の検討においても、吉高GPはその土台となった。20年5月、教務主任をリーダーとし、各教科主任などで構成される「カリキュラム・マネジメント委員会(以下、CM委員会)」で、初めて新教育課程の議論が行われた。同委員会は、吉高GPの策定時に立ち上げられた組織だ。まず、古屋校長が自校の教育方針や教育

目標を改めて説明し、それらを検討の土台とするよう指示。それを受けて各教科主任が教科会議で話し合い、同年10月に、各教科の新教育課程への要望をCM委員会に取りまとめた。

「1学年の総単位数は最大42単位数まで膨らみましたが、各教科・科目には現在の教育課程の単位数を維持したいという思いが当然ありますから、想定内の結果でした。『ここからは、教科・科目の枠を超えて、全校で生徒の成長を支える視点で議論を深めていこう』と呼びかけました」(古屋校長)

検討する上で重視したのは、3年間の学びを通じた生徒の成長と

いう縦軸と、教科連携による学びの相乗効果という横軸を、教師一人ひとりが持つことだった。教務主任の東一孝先生は次のように説明する。

「吉高GPによって、教育課程編成の方針の共通理解は既に図れていたため、すぐに建設的な議論に移れました。新教育課程は新しい考え方が求められるものではなく、従来の教育の延長線上にあると捉えています。現行の教育課程で吉高GPの達成にかなり迫れていると、多くの教師が手応えを感じており、現行の教育課程のよさをできる限り生かすことを意識して話し合いました」

東先生は、各教科主任と相談し、教科の状況を聞いた上でCM委員会での検討内容を説明。教科会議とCM委員会のそれぞれの議論を行き来し、単位数を調整した。そして、20年12月、CM委員会が新教育課程の仮案を作成(P.12図2)。それを基に、さらに議論と調整を重ね、21年3月に最終版を完成させて、山梨県教育委員会に提出する予定だ。

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

図2 山梨県立吉田高校 2022年度入学者 教育課程 検討案

教科	科目	標準 単位 数	1年		2年				3年				
			普通科	理数科	普通科		理数科		普通科		理数科		
					文系	理系	文系	理系	文系	理系	文系	理系	
国語	現代の国語	2	2	2									
	言語文化	2	2	2									
	論理国語	4			3	2		2	2	2		2	
	文学国語	4			3	3		2	2	3	3		2
	国語表現	4								2			
	古典探究	4								2			
	*古典講読												
	*国語研究									2			2
地理 歴史	地理総合	2	2					2					
	地理探究	3											
	歴史総合	2	2	2									
	日本史探究	3			3			2		2		4	
	世界史探究	3			3			2		2		4	
	*学校設定日本史									2			
	*学校設定世界史									2			
	*日本史研究									2			
	*世界史研究									2			
	公民	公共	2	2	2								
倫理		2								3	3	3	3
政治・経済		2			2	2	2	2			1	1	1
数学	数学Ⅰ	3	3										
	数学Ⅱ	4	1		3	4							
	数学Ⅲ	3								3			
	数学A	2	2										
	数学B	2			2	2							
	数学C	2			1	1				1			
	*総合数学α									3			
	*総合数学β									2			
	*総合数学γ										3		
理科	物理基礎	2				2							
	物理	4				3					4		
	化学基礎	2	2										
	化学	4				3					4		
	生物基礎	2			3	2							
	生物	4				3					4		
	地学基礎	2	2										
	地学	4											
	科学と人間生活	2											
	*理科特論									4			
保健 体育	体育	7~8	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	
	保健	2	1	1	1	1	1	1					
	*体育実践								3				
芸術	音楽Ⅰ	2	2	2									
	音楽Ⅱ	2				1							
	音楽Ⅲ	2											
	美術Ⅰ	2	2	2									
	美術Ⅱ	2				1							
	美術Ⅲ	2											
	書道Ⅰ	2	2	2									
	書道Ⅱ	2				1							
	書道Ⅲ	2											
	*芸術探究									3			
	素描									2			
	ソルフェージュ									2			
	*応用書道									2			
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3	3									
	英語コミュニケーションⅡ	4				5	4	4					
	英語コミュニケーションⅢ	4							4	4		4	
	論理・表現Ⅰ	2	2	2									
	論理・表現Ⅱ	2				2	2	2					
	論理・表現Ⅲ	2							3	3		3	
*英語特論								2					
家庭	家庭基礎	2				2	2	2					
	家庭総合	4											
	生活デザイン	4											
	フードデザイン									2			
	*ライフサポート									2			
情報	情報Ⅰ	2	2					2					
	情報Ⅱ	2											
理数	理数数学Ⅰ	6		4								4	7
	理数数学Ⅱ	8		2									2
	理数数学特論	6											2
	理数物理	6		3								3	3
	理数化学	6		2			1	3					3
	理数生物	6		3				3					3
	理数地学	6											3
	★理数探究	2		★1				★1					
	*理数理科特論												3
校外学修 特活	*ボランティア活動		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計単位数				35	36	35	35	36	36	35	35	35	35

注1)「\*」は学校設定科目。 注2)「★」は長期休業中などに実施する科目。 注3) ( )は生徒からの申告により認定される単位。 ※学校資料を基に編集部で作成。

探究学習を軸に、各教科・科目が連携する学びを目指す

のポイントを見ていく。特徴は、現行の教育課程の方針を継承しつつ、探究学習を軸に各教科・科目の連携を進展させた点

だ。富士山を間近に望む同校は、02年度から「総合的な学習(探究)の時間」で、富士山や富士吉田市を題材とした探究学習「富士山学」

を実施している。生徒は、「自然・環境」「歴史・文化」などの5分野から1つを選んで探究を深めるが、いずれの分野でも富士山の

地形や地質の知識が必要となるため、新教育課程では普通科の1年次に「地学基礎」を配置した上で、理科の他科目の配置を検討した。

「情報Ⅰ」は、大学入学共通テストでの出題が検討されている点を踏まえ、2・3年次での配置も考えた。しかし、「情報Ⅰ」は、数学や地理、さらには探究学習と連携させた学びができると考え、普通科では1年次に配置した。

同校は、ビッグデータを提供する「地域経済分析システム（RE S A S）」（\*1）を活用して学習を行う「RE S A S de 地域探究実践校」であり、20年12月、内閣府主催の成果発表会で、生徒はRE S A Sを活用した探究学習の成果を発表した。「情報Ⅰ」は他の学びと関連づけて発展させたいと、「総合的な探究の時間」担当の木下花子先生は語る。

「生徒がデータを活用する様子を見て、データサイエンスは全生徒に必須の素養だと感じました。『数学Ⅰ』や『情報Ⅰ』で得た知識とRE S A Sの活用を、『富士山学』で連携させ、横断的な学び

に発展させていく計画です」

理科では、1・2年次に各1単位の「理数探究」を配置した。生徒各自の関心に基づいて数学や理科に関する研究テーマを設定し、地元企業や研究所、大学と協働して探究を進め、大学での学びにつながるようにする。理数科担任の有野将太先生はこう話す。

「現行の教育課程では、『課題研究』で、数学や理科の枠を超えた横断的な探究を行っています。『理数探究』では、地域の連携先をさらに充実させ、探究を深めていく予定です」

### ■ ■ ■ 単位数の減少を 教科・科目間で連携して補完

科目構成が大きく変わる国語でも、様々な検討がなされた。現行の教育課程で「国語総合」を1年次に5単位としていることから、当初、「現代の国語」2単位、「言語文化」3単位を考えた。しかし、他教科・科目の単位数を考慮して再検討し、最終的に「言語文化」を2単位とした。

「その分、例えば、手紙の書き方は、『富士山学』で関係者への礼状を書く際に指導するなど、他教科・科目と連携して補完する計画です。本校では、学年主任や教務主任が中心となつて有機的に教育活動が行われており、他学年・教科に相談しやすいという強みがあります」（木下先生）

数学では、「数学C」の扱いが論点となり、現時点では、普通科文系は2年次に1単位、理系は2・3年次に各1単位の配当とした。

### ■ ■ ■ 新教育課程に応じた 学習評価の仕組みづくりに着手

新教育課程の完成後は、学習評価の検討に移行する予定だ。観点別学習状況の評価の実施に向けて、吉高GPの8つの力を、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到し落し込む。

多面的評価の拡充も図る。20年度に受験したベネッセの「GPS-Academic」（\*2）の結果によって、教師が経験則で捉えていた生

徒の成長が可視化された。そこで、21年度から同アセスメントを本格的に導入することにしたと、谷内路久教頭は語る。

「これまで吉高GPの到達度は、自己評価を基に測っていました。指導と評価の一体化を一層推進するためにも、『GPS-Academic』などの客観的指標でも効果検証を行う必要があるでしょう。また、評価方法を多様化することで、生徒一人ひとりに合った支援が可能になり、教科横断的な学びの充実にもつながると考えています」

同校では今後、地域や大学などとの連携を一層強化して持続可能な教育活動の実現を図っていく。

「学校だけに利点のある連携は、長続きしません。地域や大学などと連携する中で、本校の生徒に対する学校外の評価を把握し、本校が目指す生徒像が本当に社会から求められているのかを問い続けることが重要でしょう。そして、そうした視点を反映させた教育活動を行い、地域や社会にとつて真に有為な人材を送り出すことを目指していきます」（土屋校長）

\* 1 Regional Economy Society Analyzing Systemの略。産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム。地方創生の様々な取り組みを情報面から支援するために、経済産業省と内閣官房が提供している。 \* 2 ベネッセのアセスメントの1つで、問題発見・解決に必要な3つの思考力（批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力）を選択式、記述・論述式、質問紙で多面的に測るテスト。

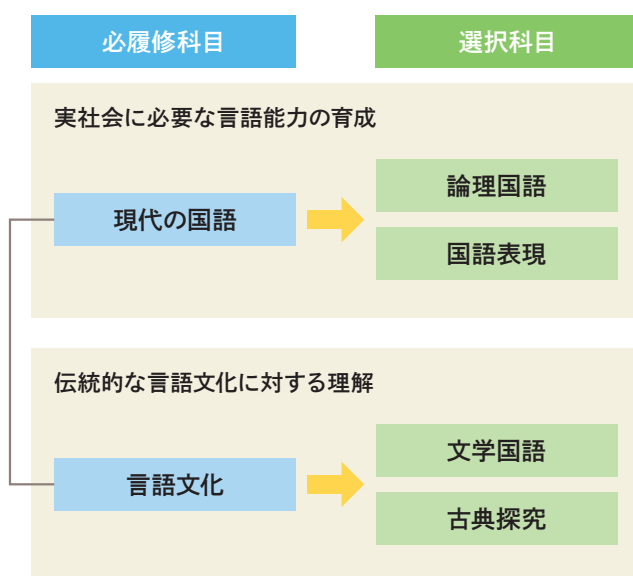
## 新たな科目が設置される教科の 検討ポイント

新教育課程編成で鍵となるのが、新学習指導要領で新たな科目が設置される教科です。ここでは、国語、地理歴史・公民、数学、情報の検討ポイントを解説します。

### 国語 選択科目を どう組み合わせるか

国語は、「実社会に必要な言語能力の育成」と「伝統的な言語文化に対する理解」という2つの観点で科目が再編成され（図1）、「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」が選択科目となりました。選択科目のうち、どの科目をどの年次で履修させるかが検討ポイントです。育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、大学進学者の多い学校では、「論理国語」「古典探究」を高校2年次から3年次に履修、就職者の多い学校では、就職後に生かせる表現力の育成を目的として「国語表現」を履修させるといった考え方ができます。

図1 国語の必修科目、選択科目と、その接続関係



# 新教育課程編成で 必要な視点・考え方

多くの学校で、既に2022年度入学生への教育課程の編成案が作成されている。今後は、5～6月に公開される予定の検定済み教科書見本の内容などを踏まえて、編成案の見直しを図っていくことになる。その際に必要となる視点や考え方について、ベネッセ文教総研が解説する。

西島一博  
所長  
ベネッセ文教総研



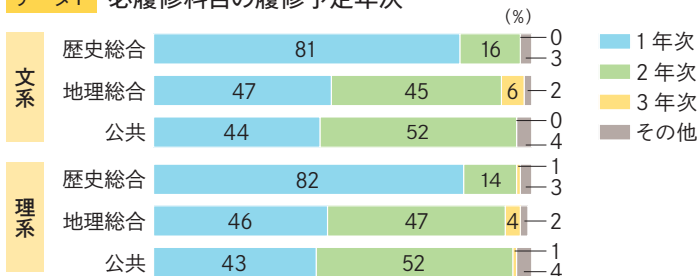
解説

# 地理歴史・公民

必修科目の「地理総合」「歴史総合」「公共」をどの年次で履修するか

成年年齢の引き下げなどを踏まえて、「公共」は原則1・2年次で履修することとされています。地理歴史での探究的な学びを深めるため、選択科目の「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修させたい学校は、低学年次に必修科目を履修させたいところですが、「地理総合」と「公共」は、2年次で履修という学校も少なくありません（データ1）。

データ1 必修科目の履修予定年次



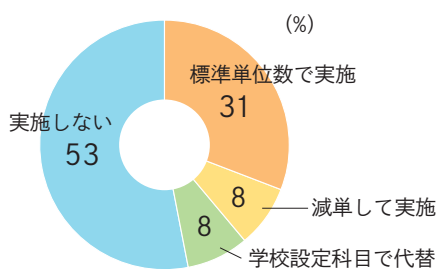
※ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」速報結果（回答者 233人）より。

# 数学

文系における「数学C」の履修の有無

2025年度大学入学共通テストの出題科目として検討されている「数学Ⅱ、数学B、数学C」が、「数学B」の2項目の内容(数列、統計的な推測)及び「数学C」の2項目の内容(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)に対応した出題とし、そのうち3項目の内容の問題を選択して解答させることとしている点から、文系における「数学C」の取り扱いがポイントの1つになります（データ2）。

データ2 文系における「数学C」の取り扱い



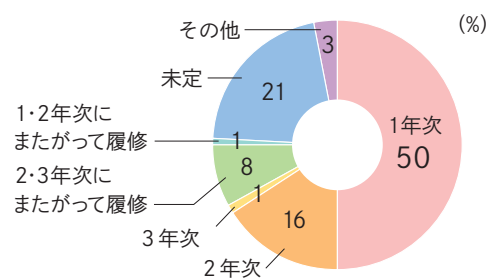
※ベネッセ教育情報センター「教育・入試改革対応に関する調査」速報結果（回答者 233人）より。

# 情報

必修科目の「情報Ⅰ」をどの年次で履修するか

必修科目「情報Ⅰ」の履修年次は、1年次とする学校が多いようです（データ3）。「公共（情報モラル）」「数学Ⅰ（データの分析）」などの他科目や、「総合的な探究の時間」と連携させられることが利点です。一方で、大学入学共通テストの出題科目として検討されている点を踏まえると、2年次以降も継続して「情報Ⅰ」の内容を踏まえた学習を続けられる工夫が求められます。

データ3 「情報Ⅰ」の履修予定年次



※ウェブセミナー「今から始める新教育課程『情報』の準備」第1回申し込み者のアンケート結果（回答者 207人）より。

## その他にも

「公共」同様、成年年齢の引き下げなどを踏まえて1・2年次の履修が求められる「家庭基礎」の履修年次、4技能5領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）の充実を図る英語の履修パターンなども、検討ポイントとして挙げられます。

# 視点 1

## 自校で育成を目指す資質・能力から考える

教育課程の編成にあたっては、新学習指導要領に「学校教育全体や各教科・科目等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にする」とあるように、資質・能力の3つの柱を踏まえて、自校で育成を目指す資質・能力を教育目標として定め、その実現のために必要な各教科・科目等の教育内容を組織することが求められます。すなわち、教育目標として掲げる資質・能力を育成する教育課程になっているかどうかという視点が重要で、「どの科目が、目標とする資質・能力の育成に寄与するか」「何年次に履修させると、その資質・能力を最も向上させることになるか」などと問いかけながら、履修科目や履修年次を検討するとよいでしょう。

自校で育成を目指す資質・能力の1つである「情報活用能力」は、低学年次から育成したいので、「情報Ⅰ」は1年次に履修させたい

卒業後に就職する生徒も多い本校は、育成を目指す資質・能力として「表現力」を掲げているので、「国語表現」を履修させよう

# 履修科目・年次検討時の 3つの視点

新学習指導要領で新たな科目が設置される教科を中心に、今後、履修科目・年次の検討を行う際に重要となる視点として、次の3つを提示します。

## 3つの視点を踏まえて改めて見る、本特集の事例

### 事例1 山形県・私立山形城北高校

育成を目指す資質・能力として、資質・能力の3つの柱とOECDの「非認知スキル」を設定。各科・コースの特徴を生かした教育課程とするため、就職試験や総合型選抜・学校推薦型選抜で志望理由書などを書く機会が多いコースでは、3年次に「国語表現」を履修させるようにし、大学入試受験者が多い科・コースでは、2・3年次に「古典探究」を履修させるようにした。さらに、土曜日の授業を課外にすることで部活動に参加しやすくするなどの改革を推進する。

【詳細はP.6～9】

### 事例2 山梨県立吉田高校

育成を目指す資質・能力（吉高GP）を踏まえ、現行の教育課程のよさをできる限り生かしながら、3年間の学びを通じた生徒の成長という縦軸と、教科連携による学びの相乗効果という横軸を意識して教育課程を編成。その特徴の1つとして、富士山や富士吉田市を題材とした「総合的な探究の時間」（「富士山学」）を軸に、「地学基礎」「情報Ⅰ」「理数探究」を1年次に履修させるようにするなど、各教科・科目の連携を発展させた点が挙げられる。

【詳細はP.10～13】

## 視点 3

### 生徒の希望進路の実現から考える

教育課程は、生徒の希望進路の実現を支援するものでもあることから、その編成においては、就職先の仕事の実態や業界の課題を理解したり、進学先となる大学などの選抜試験で課される科目を確認したりすることなどを通じて、生徒の進路先でどのような資質・能力が必要とされているのかを把握することが重要です。「国語の選択科目は、大学入試で課されると予想される『論理国語』『古典探究』を履修させる」「国立大学志望者が多い本校は、大学入学共通テストの出題科目として検討されている『数学C』を、文系も履修させる」といった方針を打ち出している学校もありますが、入試科目は、大学での学びや社会において、どのような資質・能力が必要なのかを伝える、大学からのメッセージです。入試で必要とされるからということだけではなく、その科目を入試で課すことを通じて、生徒のどのような資質・能力を見ようとしているのかを教師間で理解した上で、視点1や視点2も踏まえて、教育課程に組み込むことが求められます。

## 視点 2

### 「総合的な探究の時間」を要に教科等横断的に考える

各教科間はもちろん、新学習指導要領解説総則編に「総合的な探究の時間において教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習が行われるようにすることなど、教科等間のつながりを意識して教育課程を編成することが重要」とあるように、「総合的な探究の時間」を要に各教科等を有機的につなぐことができれば、自校が教育目標に掲げる資質・能力を育成する教育課程の実現に近づくでしょう。

#### 例 「総合的な探究の時間」×「数学I」×「公共」×「情報I」

「総合的な探究の時間」でデータの分析方法や情報モラルといったスキルや知識が必要になるため、それらが学べる「数学I」（データの分析）、「公共」（情報モラル）、「情報I」は1年次に履修させる。

#### 例 「情報I」×「数学A」

「情報I」の「コンピュータとプログラミング」の内容に含まれる「モデル化とシミュレーション」は、「数学A」の「場合の数と確率」と関連が深いことから、「情報I」は1年次に履修させる。

生徒が自由に使える可処分時間の確保や教師の「働き方改革」の推進なども考えると、教育課程編成で「できること」の限界を感じるかもしれません。しかし、生徒の資質・能力を育むカリキュラムは、教育課程を含む教育活動の総体で実現されるものです。どのような資質・能力を、どの時期に、どの分野・単元において、どんな指導・教育活動を通じて育成するのかを、シラバスなどに整理をして、それを教師・生徒が共有し、さらに学習評価も充実させることで、教育課程は真にその力を発揮します。新学習指導要領の実施まで1年を切った今、教育課程に命を吹き込む取り組みが、各校に求められているのではないのでしょうか。

## 教育課程の

## 確定に向けて

## 大切にしたいこと

3つの視点とともに、各年次の総単位数や教員配置などの観点も踏まえて調整しながら、教育課程を確定させる上で大切にしたいことをお伝えします。

# 長野県「学びの指標」から考える これからの学習評価のあり方とは

新教育課程編成の次なる課題として、多くの学校・教師が挙げるのが、学習評価だ。

長野県は2021年度、県立中学校・高校で「学びの指標」を試行する。検討にかかわった教師や外部有識者たちが振り返る、学びの成果を適切に評価するための同指標作成の背景や経緯、および今後の展望に耳を傾け、これからの学習評価のあり方を考える。

■ ■ ■ 生徒が自己の変容を  
実感できる評価が重要

——先生方が考える理想の学習評価と、その実現のための課題を教えてください。

**内堀** 学習評価の役割は、生徒の学習の状況や成果を、教師が的確に把握し、授業改善等に役立てること、そして、生徒が自身の学習状況をメタ認知し、次なる学習につなげることにあると考えます。絶対評価や観点別学習状況の評価は、現行課程でも行われていますが、高校で学習評価と言えば、相対評価を思い浮かべる教師が現在も少なくないと思います。

偏差値などの相対的な指標は、進路指導等における活用の仕方次第で、生徒の学びの意欲を高めることに寄与する可能性もあります。一方で、その指標によって生徒は、時に保護者や教師の期待に応えられないことなどに苦しみ、学習意欲や自己肯定感を低下させるケースも見られました。偏差値や大学合格実績を偏重する評価観を改め、生徒一人ひとりの学びにつながるような評価観を構築する必要があります。

**佐野** 生徒の学習意欲を高め、一歩を踏み出したのかを明らかにし、目標や理想の実現に向けて進んでいくための教師と生徒の対話では、時に保護者や教師の期待に応えられないことなどに苦しみ、学習意欲や自己肯定感を低下させるケースも見られました。偏差値や大学合格実績を偏重する評価観を改め、生徒一人ひとりの学びにつながるような評価観を構築する必要があります。

**土屋** 学校行事や部活動で実績を上げることが、学習で成果を上げることは、どちらも等しく素晴らしいことであるにもかかわらず、進学実績の方に価値を置く教師や保護者は少なくありません。そうした価値観を変えることに加えて、

たとえ思うような結果を出せなくても、自身で目標達成に向けて努力した姿勢や、周囲と協働して取り組んだプロセス、そこで得られた資質・能力に価値があるといった認識を、学校や家庭で共有することが、評価観を変える第一歩になるのではないのでしょうか。

**小村** 学習評価は、学校外で設定された尺度に生徒をあてはめるものはありません。学校が何を目指すのか、生徒にどのように育ててほしいのかを、教師や保護者、その他のステークホルダーの共通理解の下に設定すべきでしょう。そして、その評価によって生徒が前向きになれたのか、教師が生徒

をより理解できるようになったのかということ、何度も問うべきです。

一方で、社会で生きていく限り、常に周囲からの評価がつきまといまいます。その意味では、どうすれば周りから自身への理解を得られるの



**長野県教育委員会事務局 高校改革推進役 内堀繁利** うちぼり・しげとし

長野県教育委員会高校教育課長、長野県上田高校校長等を経て、現職。中央教育審議会「新しい時代の高等学校教育の在り方WG」委員等も務める。



**広島県・私立英数学館中学・高校 副校長 土屋俊之** つちや・としゆき

教職歴21年。同校に赴任して1年目。「学びの指標検討会」に実践発表・助言者としてゲスト参加。

か、前向きに考えるマインドやスキルを持つことも必要です。生徒は理想の実現に向かって努力して

いることを教師に評価してもらえらるるよう努め、教師はそれをしてしっかり受け止めるといった関係づくりも、課題の1つになるでしょう。



**東京都・私立かえつ有明中・高校 副教頭 佐野和之** さの・かずゆき

教職歴27年。同校に赴任して7年目。「学びの指標検討会」に実践発表・助言者としてゲスト参加。



**ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 小村俊平** こむら・しゅんぺい

「学びの指標検討会」座長。

■ ■ ■ 個人と社会の Well-being を目指す

——長野県では、まさに今挙げられた課題に取り組み、学習評価のあり方を構築しようとしていると伺いました。

**内堀** 本県では、2019年に外部有識者や県内の校長から成る「学びの指標検討会」を立ち上げ、これまでの学習評価が必ずしも生徒の学習意欲を高めるものになつていなかったという課題意識に基づき、育成を目指す資質・能力を整理して、学びの成果を適切に測る指標のあり方を検討してきました。そうしてとりまとめた新しい「学びの指標」は、その導入・活用によって、生徒個人と社会の Well-being を実現することを目的としています。

——具体的にどのような指標なのでしょうか。

**内堀** 「学びの指標」では、全県共通質問と学校独自質問を設定し、生徒に「自分自身をどう見るか」「なぜそう思うのか」を問います。全県共通質問は、県全体の学び

の充実度を検証するものであり、「自分なりの価値観や考え方をもっている」「これから先、どのように生きていきたいかを考えている」「自分にはよいところがあると思う」の3つです。学校独自質問は、各校が生徒とともに学校教育目標や特色に応じた内容を設定します

(P.20図)。

生徒に対しては、「面談や日常の対話などで活用することを想定しています。そのため、生徒や保護者とも「学びの指標」の理念と活用方法を共有します。また、本指標はあくまでも生徒の自己評価に用いるものであり、直接、各教科・科目の評価・評定に用いることはありませんが、教育課程の見直しや教育活動の充実に向けた検討時の活用が想定されます。

——21年度の導入にあたって、学校現場からはどのような反応がありましたか。

**内堀** 検討過程では、高校以外にも、大学や専門学校、中学校、企業、若者の自立支援を行う団体などと、広く語り合いました。学校だけを変えても意味がないのではない

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

かということも話題になりました。子ども一人ひとりを大切に、個性を尊重するといった価値観を、学校だけでなく、地域社会にも浸透させることが大切であり、それが学校教育を変える土壌にもなるという考えで一致しました。

ただ、その理念には誰しも賛同していただけでしたが、実際の運用方法や質問などについては、指摘をいただいているのも事実です。例えば、「評価観の転換は、指標を作れば実現するような簡単なものではない」「指標の質問自体に精神的に追い込まれる生徒もいるのではないか」といった指摘です。様々な意見があるのは当然であり、引き続き関係者と対話を重ねて共通理解を図るとともに、より実効性の高い運用方法を模索していきます。

■ ■ ■ 学校外にも「学びの指標」が浸透することを期待したい

——「学びの指標」では、褒めて励ますことを基本にしています。例えば、学習状況が芳しくない生

徒には、どういった支援を想定しているのでしょうか。

**内堀** 長野県の学びの改革では、学習者である生徒主体の学びへの転換を図っています。「学びの指標」でも、叱咤や方向づけではなく、生徒と教師が対話する中から、生徒が自分なりの答えを見いだすことが大事だと考えています。

**佐野** 経験が豊かな教師ほど、生徒個々に応じた指導をしますが、自身の考えを生徒に押しつけるの

ではなく、対話を通じて生徒に今後の自身のあり方を考えさせる支援が基本ではないでしょうか。

**内堀** 自立とは、自分の人生に責任を持ち、自分で判断して生きていくことにほかなりません。他者が一方的に要求や評価を押しつけて、自立が妨げられることこそが問題です。

**小村** 「学びの指標」をノウハウとして捉えれば、「褒めて励ます指導をしなければならない」と受

図 学校独自質問の参考例（抜粋）

質問項目の例	質問の例	出典	
リテラシー	読解力・表現力	目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている	国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙 一部抜粋
	科学的考察力	現象を科学的に説明することができる データと証拠を科学的に解釈することができる	国立教育政策研究所 生徒の学習到達度調査(PISA) 2018年調査国際結果の要約 一部改
学ぶ力・学びを支える力	探究力・論理的思考力	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に掘り下げて考えている	福島県立ふたば未来学園 高校 ふたば未来学園で育てたい力(人材育成要件・ルーブリック) 一部改
	「自分軸」の確立	自分の価値観、考え方、態度・行動などを見つめ、整理し、自分の言葉で説明することができる	学校法人嘉悦学園 かつ有明中・高校 6年間で身につける知識と資質・能力 参考
社会性	キャリアデザイン力	これから先、どのように生きていきたいかを考えている	杉並区教育委員会 杉並区立済美教育センター 平成31年度杉並区 特定の課題に対する調査、意識・実態調査報告書
	シチズンシップ・社会貢献への能動性	日本や世界で問題になっていることについて、自分なりの考えを持っている	
認める力 自他を	自己効力感	自分で社会を変えられると思う	日本財団 18歳意識調査 第20回社会や国に対する意識調査詳細版(日本) 一部改

※「長野県立中学校・高等学校 新しい『学びの指標』」を基に編集部で作成。  
[https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/goannai/kaigiroku/r2/teireikai/documents/1071\\_h4.pdf](https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/goannai/kaigiroku/r2/teireikai/documents/1071_h4.pdf)

け止めがちです。しかし、「生徒の学びに向かう意欲を喚起する」という理念を押しえられれば、支援はどんなアプローチでもよいことが分かるはずで、大切なのは、自己効力感や成長の手応えに結びつく評価を提供することであり、「学びの指標」が、その実現のための方を、教師が考えるきっかけになることを願います。

**内堀** 「学びの指標」は、各校の目標や実情に応じて運用されます。ポートフォリオやキャリア教育と関連づけて「学びの指標」を活用することを考えている学校もあります。「学びの指標」の考え方は未来の担い手である生徒にとって大切なものである」と共鳴してもらえれば、今後の課題でも増やすことも、今後の課題です。

**土屋** 学校外にも「学びの指標」が浸透することを期待しています。そうして、これからの社会を生き抜いていく上で必要な資質・能力の育成に努める学校に、より光があれば、同様の志を持って教育活動に励む全国の教師を勇気づけることにはなるのではないのでしょうか。

# For School Section

学校改革や組織運営に役立つ  
事例や情報を、  
先生方の思いを乗せてお届けする

P.22

## 新課程に向けて描く 「学校教育デザイン」

新課程で求められるカリキュラム・マネジメントの  
視点での学校づくりとは？

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

## 埼玉県立鴻巣高校

改革の歯車を回し続けるために、  
教師一人ひとりの当事者意識を育む

P.26

## 新課程レポート

新課程初年度に向けた自校の計画・実践に  
つながる事例や解説記事を提供

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

## 秋田県立湯沢高校

育成を目指す資質・能力の設定と実践  
生徒の実態から育成を目指す資質・能力を設定し、  
科目別ルーブリックで授業改善を図る

P.30

## 指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。  
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

## 大阪府・私立興國高校

組織的な学校改革  
全教師によるボトムアップの改革で、学校存続の危機を乗り越え、  
一人ひとりの希望進路を実現

P.34

## 輝く 学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！  
チームづくりの秘訣を掘り下げる

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任

## 北海道・私立札幌光星中学校・高校 高3学年団

進路指導ストーリーの共有を徹底  
大所帯でも「温度差」なし

P.38

## 学校 危機管理 基礎講座

お勧めの分掌 ▶

管理職

いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

## 学校の危機管理の基本

新課程に向けて描く

## 「学校教育デザイン」

# 改革の歯車を回し続けるために、 教師一人ひとりの当事者意識を育む

埼玉県立鴻巣高校

アウトライン

目指す学校・生徒像を定め、校内で共有



生徒の進学先が求める  
資質・能力をつぶさに分析

2018年度に創立100周年を迎えた埼玉県立鴻巣高校では、永井一博校長の下、育成を目指す資質・能力の設定と教科のグランドデザイン策定、そして、指導と評価をつなげる教育活動全体の改革が進行中だ。17年度に同校に赴任して以来、取り組みを牽引する出井孝一教頭は、新たに始まる100年を念頭に、育てたい生徒像と資質・能力からカリキュラム・ポリシーの検討をスタートさせたと振り返る。

「カリキュラム・ポリシーは、自校の教育目標を達成するための

教育課程の編成及び実施に関する方針を示すものですが、生徒の進路実現を支援するためには、それが独り善がりのものであってはなりません。普通科と商業科を設置する本校は、生徒の希望進路も多様です。これまでの本校の生徒の進学先のアドミツション・ポリシーをすべて確認し、それを参考に、育成を目指す資質・能力を定め、教育課程を編成しました」

18年度末には、各教科で育成を目指す資質・能力とその達成のための具体的な授業方法を明文化し、それらを基に各教科の3学年分のグランドデザインを制定した(図1)。新教育課程の編成を主導する荒木海先生は、自身が担当す

る授業において資質・能力の育成が十分に行われているかを改めて確認することができ、さらに他教科の取り組みを可視化する機会にもなったと、各教科のグランドデザインの策定の意義を説明する。

「私の担当教科は国語ですが、例えば、秋には英語科が留学希望者を中心に検定の学習に力を入れていることを知り、同時期を留学に必要な志望理由書を書く意識づけの機会と捉えるようになりました。新学習指導要領への対応を図る上では、教育活動の精選が必要になると考えています。教科の枠を超えて自教科の指導を考える視点を得られたことには手応えを感じています」

SCHOOL PROFILE

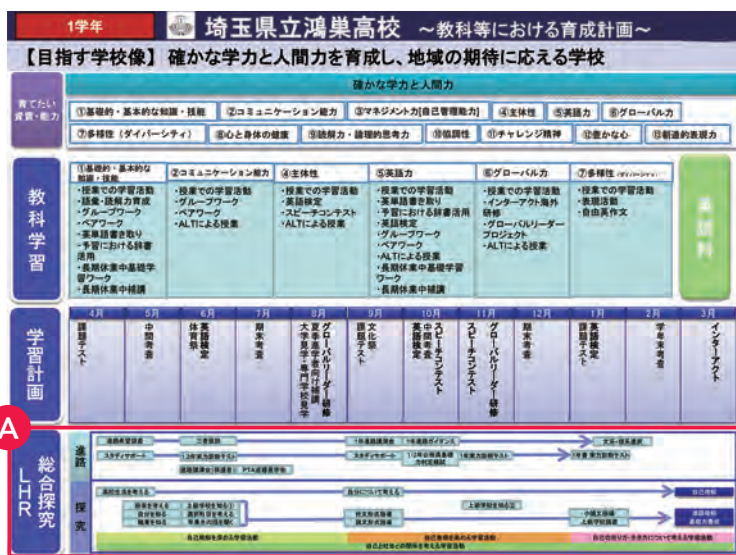
**設立** 1918 (大正7) 年  
**形態** 全日制/  
 普通科・商業科/共学  
**生徒数** 1学年約280人



**2020年度進路実績 (現役のみ)**

4年制大は、お茶の水女子大、国土館大、駒澤大、大東文化大、東京電機大、東洋大などに延べ110人が合格。短大・専門学校進学117人。就職は、武蔵野銀行、吉見町役場、埼玉県央広域消防、上尾市消防などに40人。

図1 教科のグランドデザイン (英語科・1学年)



育成を目指す資質・能力を念頭に、「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」の視点で、各教科においてグランドデザインを検討・作成した。「総合的な探究の時間」などにおける地域と連携した教育活動を、教科学習の中にも取り入れながら、学んだ知識が生きて働く実感を味わわせる指導の実現にも留意したという。  
 ※学校資料をそのまま掲載。

各教科のグランドデザインには、進路行事とともに、「総合的な探究の時間」での具体的な活動とそのねらいが記載されている(図1・枠A)。それは、各教科における資質・能力の育成と、「総

合的な探究の時間」での資質・能力の育成を連携させるためだ。「総合的な探究の時間」の運営委員会委員長の金澤みなみ先生は、「各教科の授業で身につける資質・能力は、『総合的な探究の時間』に生かすことができ、さらに進路実現へとつながっていくという意識を、生徒に定着させたい」と語る。

「私の担当の地理歴史の授業では、データを読み取ったり、グラフを作成したりするを通じて、読解力や論理的思考力の育成をしています。それらは『総合的な探究の時間』でも度々活用する資質・能力であり、大学入試の小論文や面接などでも求められます。教科のグランドデザインを基に、教科学習、『総合的な探究の時間』、進路学習がなっていることを理解することで、生徒はそれぞれの活動に意義を感じながら主体的に取り組むことができるようになります。その結果、生徒たちの進路意識は、進路学習だけでなく、高校の諸活動の中で早期に醸成されていくと考えています」

同校では、育成を目指す13の資質・能力を、5段階のルーブリックで示し、生徒と教師が共有している。進路指導主事の平田光子先生は、育成を目指す資質・能力を念頭に置き、21年度入試から新しい様式となった調査書に教師が対応するための準備を進めた。生徒が自身の学習状況や生徒会活動

図2 育成を目指す資質・能力の自己評価フォーマット

	構造的に取り組んだ 教科・科目に関する状況	構造的に取り組んだ 学校内外における活動状況
記入	1に英語の学習について記入した。また、英語の授業から自己評価するレベルを記載する。 2「基盤的知識を基盤的に定着し、振り返りながら進歩的知識を定着する」	1に学校行事について記入した。また、英語の授業から自己評価するレベルを記載する。 2「基盤的知識を基盤的に定着し、振り返りながら進歩的知識を定着する」
13の	1「中身の濃い学習活動」を授業で実践した。授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。また、授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。 2「各教科における、教科書の役割を十分に理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」	1「中身の濃い学習活動」を授業で実践した。授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。また、授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。 2「各教科における、教科書の役割を十分に理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」
21の	1「授業の時間」を有効に活用し、授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。また、授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。 2「各教科における、教科書の役割を十分に理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」	1「授業の時間」を有効に活用し、授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。また、授業の準備・実施・振り返りについて、具体的な内容を記入した。 2「各教科における、教科書の役割を十分に理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」
33の	1「授業中、物理・化学・生物を学び、その内容を理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」 2「各教科における、教科書の役割を十分に理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」	1「授業中、物理・化学・生物を学び、その内容を理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」 2「各教科における、教科書の役割を十分に理解し、その内容を理解し、他の教科と関連付けて学習する」

教科学習、特別活動、部活動等の6項目において、育成を目指す13の資質・能力のうちのどれが、どの程度身についたのかを、生徒が自己評価する。担任との面談や調査書の作成に活用する。  
※学校資料を抜粋して掲載。

学校行事といった特別活動を振り返るための自己評価フォーマットを作成(図2)。20年度から全学年で運用している。

「新様式の調査書における『指導上参考となる諸事項』の6項目について、育成を目指す資質・能力のルーブリックで示された各段階の状態と照らし合わせて、自分は何ができるようになったのかを生徒自身がその裏づけとなるエピソードとともに記載します。生徒は、自分の志望校のアドミツション・ポリシーなどを踏まえて、今

後どういった資質・能力を高めるべきか、入試では何をアピールすればよいのかを考え、高校生活を充実させていきます。出願時には、私の元に生徒の自己評価とともに担任が記入した調査書が集まるのですが、その記載内容を見るだけで、私が直接知らない生徒でも、どういった高校生活を送り、どのような資質・能力を身につけてきたのかイメージできるようになっていきます。『この調査書ならば、大学にも生徒のよさが伝わるはずだ』と手応えを感じました」

## ブレイクスルー

### 教師の改革推進力を高める

現場のニーズを踏まえて柔軟に研修を実施

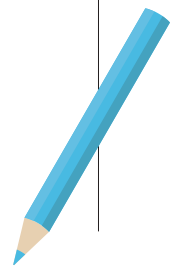
育成を目指す資質・能力の設定やカリキュラム・ポリシー及び各教科のグランドデザインの策定の際に、同校が重視したのが教員研修だ。

「グランドデザインを踏まえた上で実際に授業を行うのは、教師一人ひとりです。すべての教師が学校改革の方向性を理解し、改革の当事者となるように、現場のニーズを踏まえた教員研修を実施しました」(出井教頭)

新学習指導要領の内容周知や観点別の評価規準などの研修を担当してきた進路指導部の森廣祐介先生は、「先生方の理解度に鑑みて、研修内容を柔軟に組み立てた」と説明する。

「20年度は、各教科で、育成を目指す資質・能力の到達状況を評価するためのルーブリックの作成を進めてきました。しかし、先生方から、到達度を明確に表現するのが難しいという声が上がったため、ルーブリックの作成に関する研修を新たに実施しました。すると、放課後の職員室において、先生方が他校のルーブリックを参考に、本校の生徒に合った評価規準について議論する様子がよく見られるようになりました」

教科・科目のルーブリックのほかに、自己評価フォーマットを活用しながら、生徒から自分ができるようになったことを言葉として引き出すための面談方法や、教師が調査書を作成する際に、生徒の成長を的確に表現する記述方法などのテーマで、研修を行った。





改革を牽引する教師には  
成功や失敗の経験が必要

出井教頭は、教師一人ひとりが様々な場面で成功体験や失敗経験を積みながら、学校改革推進の力を高めることが重要だと説明する。創立100周年記念行事では、全教師を何らかのプロジェクトユニットに配置し、自らの責任で判断・実行することを経験させた。

「総合的な探究の時間」の運営委員会委員長である金澤先生は、19年度の苦い経験が自身の成長の糧になったと振り返る。

「生徒が問いを自分ごとに行えないままグループ活動に入ったため、調べ学習で終わってしまったので。探究の前提となる部分で失敗したことに悔しさを感じましたが、そんな私に、出井教頭や先輩方は引き続き探究の推進役を任せてくださいました。20年度は同じ過ちを繰り返さないよう、他校の探究の発表会にも積極的に参加して、個人探究とグループ活動の接続などを改善しました」

## アップデート

### 「授業」という小さな歯車を安心して回せるように

#### 若手教師のボトムアップで 授業改善の自主P.T.が始動

教科のグランドデザインの策定や教科・科目のルーブリックの検討を行う中で、定期考査に思考力を測る問題を一定数盛り込む教科が出てくるなど、同校の教師の意識改革は着実に進んでいる。今後は、科目ごとのルーブリックを完

成させた上で、どのような方法で観点別学習状況の評価を行うのかを検討していく。

「他校の先生から、『カリキュラム・マネジメントがなぜかうまく機能しない』といった声を聞くことがありますが、それはグランドデザインなどの大きな歯車を作っただけで、授業という小さな歯車が回っていないからだと思いま

す。一人ひとりの教師が小さな歯車を回し始めれば、失敗も経験するでしょう。しかし、教師には、

失敗を乗り越えた先の成功体験が必要です。先生方から様々な場面で『変えてみたい』といった、挑戦を望む声がどんどん出てくるように、皆が安心して挑戦できる環境をつくっていききたいと思えます」(出井教頭)



教頭  
出井孝一  
いでい・こういち

教職歴30年。同校に赴任して4年目。



進路指導主事  
平田光子  
ひらた・みつこ

教職歴31年。同校に赴任して2年目。商業科。



進路指導部  
森廣祐介  
もりひろ・ゆうすけ

教職歴11年。同校に赴任して9年目。教員研修担当。数学科。



教務部  
荒木 海  
あらかき・はるか

教職歴7年。同校に赴任して8年目。教育課程委員会委員長。国語科。



渉外部  
金澤みなみ  
かなざわ・みなみ

教職歴5年。同校に赴任して6年目。「総合的な探究の時間」運営委員会委員長。地理歴史科。

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

新学習指導要領の実施が2022年度に迫る中、21年度は、新課程に向けた計画とその先行実践を通じた授業と評価の改善が求められる。充実した新課程初年度に向け、実践事例や解説記事によって現場の疑問や課題を解決し、自校の計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

## 新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

# 育成を目指す資質・能力の設定と実践

### 実践レポート

生徒の実態から育成を目指す資質・能力を設定し、科目別ルーブリックで授業改善を図る

#### 秋田県立湯沢高校

秋田県立湯沢高校では、2019年度からカリキュラム・マネジメントの観点での教育活動の見直しに着手。各教科・科目において、資質・能力の育成に向けた授業改善の取り組みを続けることを通じて、22年度からの新教育課程実施の素地づくりを行っている。

### Q1 育成を目指す資質・能力と

それを達成するための教育活動を検討した経緯

A1 生徒に対して感じていた課題やこれからの社会で求められる資質・能力を教師間で語り合う中で、授業を始めとする教育活動の改善への機運が高まった

### 教師間の対話の中で「湯高力」の土台を形成

吉田功教頭 本校は、2019年度から秋田県の探究活動等実践モデル校の指定を受け、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業

改善やカリキュラム・マネジメントの推進に取り組んでいます。近年、本校でも、生徒の気質の変化や入学段階での基礎学力の低下などが指摘される中、地域の進学校として、生徒や保護者の期待に応えるために、学校改革の必要性を

感じていました。そこで、ベネッセの秋田県担当者に相談し、資質・能力の育成を目的とした教育活動の見直しについての研修を実施してもらいました。これからの社会で求められる資質・能力について考えた時、目の前の生徒にはどんな資質・能力が不足しているのかを言語化する中で、本校の教師に、いわゆる「見えにくい学力」「見えない学力」をもっと生徒に育成する必要があるという共通認識ができていきました。

田口朋美先生(探究活動推進委員) 研修では、「生徒は素直だけれど

設立 1943(昭和18)年  
形態 全日制/普通科・理数科/共学  
生徒数 1学年約200人  
2020年度入試合格実績(現役のみ)  
国公立大は、岩手大、東北大、秋田大、山形大、新潟大などに79人が合格。私立大は、東海大、東洋大、日本大、明治大、神奈川大、同志社大などに延べ155人が合格。

も、もっとと主体性がほしい」「土台となる体験が少ないのではないか」「社会問題について、知識はあっても課題が自分ごとになっていない」など、生徒について感じていた課題やあるべき姿を整理しました。それらが、各教科・科目

## Q<sub>2</sub> 改革に取り組んだ1年間での進捗とその成果

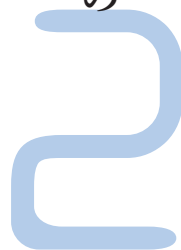
## A<sub>2</sub> 育成を目指す資質・能力「湯高力」について

ミドル層による牽引で、改革はスピーディーに進行

平田恵子先生(探究活動推進委員)

私たちが参考にしたのは、青森県立青森高校の取り組みです(『VIEW21』高校版19年4月号P.6～9)。19年12月には、育成を目指す資質・能力「湯高力」を、本

の授業と「総合的な探究の時間」、そして特別活動を往還する資質・能力の育成に取り組むその後の活動の出発点になりました。また、研修で話した内容が、育成を目指す資質・能力「湯高力」へとつながっていききました。



校の校訓と「資質・能力の3つの柱」とひもづけながら、8つに設定しました(図1)。そして、「学びの段階」と名づけたルーブリックを作成することで、生徒が自分の到達状況を振り返ることができるようになりました。その後3か月ほどかけて、各教科団で、科目ごとの「湯高力」の到達段階を言語

図1 育成を目指す資質・能力「湯高力」

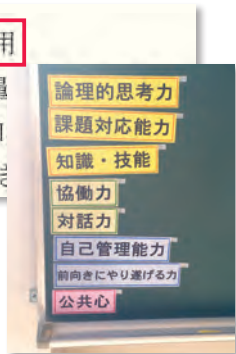
要 点	湯沢高校生として身につける資質・能力						評価の方法	
	知識・技能		思考力・判断力・表現力		学びに向かう力・人間性			
	校訓 湯高力	よく学びよく遊ぶ	互いの意見を尊重せよ	真実を喜び正しく歩め	前向きにやり進める力	胸思の届きいませ		
活用 (使える)	◆各教科・科目の学習内容を十分に理解し、身につけた知識・技能を生かして、自ら積極的に発展的な内容に取り組むことができる。	◆さまざまな視点からアプローチして課題を分析し、状況に応じて適切に判断することができる。	◆課題に対して解決策を導き出し、根拠を明確にして説明することができる。	◆相手の立場を尊重しつつ、言葉や行動を通して他者に働きかけ、理解を深めたい。集団を前向きな方向に動かすことができる。	◆自発的に問題解決に向けた方向性について議論し、合意を形成することで、行動目標を設定することができる。	◆自己管理能力 ◆社会的課題を自らも関わる課題と考え、将来への長期的な展望をもつことができる。	◆自己や社会における現状を対し、言葉や態度について多角的に捉えることができる。	◆自己生活のあらゆる場面で社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献する活動を自ら進んで行うことができる。
学びの 段階 (利用できる)	◆各教科・科目の基礎・基本となる学習内容を十分に理解し、授業内で学んだ学習活動に主体的に取り組む、学習内容について他者に伝え、理解させることができる。	◆収集した情報を整理・分析し、課題解決に向けたアプローチを明らかにすることができる。	◆物事を順序立てて考え、批判的な意見も踏まえて考えを深めることができる。	◆自分の意見と他者の意見の一致点や相違点を整理し、話し合う中で、合意し問題点をよりきりきりさせることができる。	◆話し合いの中で意見を表現したり、他者の意見を受け入れて取りまとめることができる。	◆自分の意見や考えを積極的に表現し、前向きな態度で振舞うことができる。	◆前向きな状況に直面した際、冷静に状況を分析し、前向きな姿勢で困難を乗り越えることができる。	◆公共の場での居まいし振る舞いについて考え、行動することができる。
習得 (わかる)	◆各教科・科目の基礎・基本となる学習内容を理解し、授業内で示された学習活動に主体的に取り組む、授業目標を達成することができる。	◆物事に対して疑問を持ち、解決に向けて得られた情報を基に考察する姿勢が身につく。	◆指示された内容について、まとめた、さまざまな手段で正確に他者に伝えることができる。	◆他者の意見を尊重し、自分の意見も尊重し、適切な態度で相手に伝えることができる。	◆他者の主張を尊重し、自分の意見を表現し、また他者の意見を聞きながら、集団の中で役割を果たすことができる。	◆基本的な法管理が確立でき、この重要性について理解している。	◆求められる目標や期限に向けて行動することができる。	◆定められている規範や役割を理解している。
場 面	授業 探究活動 週末課題 自学	授業 探究活動 H対活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 H対活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 H対活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 H対活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 H対活動 学校行事 部活動	授業 探究活動 H対活動 学校行事 部活動	
学校行事	生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	新入生歓迎会 生徒総会 学校祭 学校対抗 強歩大会	

※学校資料をそのまま掲載。

写真 「湯高力」の育成に向けた実践

12 **湯高力**【課題対応力】利用～活用  
 水平であらい床面上にある質量  
 水平方向に大きさ  $F$  [N] の力を加  
 は一定の速さ  $0.50$  m/s で力の向き

吉田教頭は、担当する物理の定期考査の各問題に「湯高力」の段階を示した(写真上) / 各教室の黒板には、「湯高力」を明記したマグネットシートを設置。授業の内容に応じて生徒に示すことで、「湯高力」と「授業」のつながりを意識させている(写真右)



化していききました(図2)。また、青森高校の先生を本校にお招きし、教育目標や校訓を自校で育成を目指す資質・能力に落とし込む際の考え方などを教えていただきました。

**田口先生** 「湯高力」の検討の中心的な役割が、30代から40代のミドル層の教師に任されていたことも、改革の推進力を高めました。生徒の課題を自身の経験を基に語

ることができ、学校を変えようというエネルギーを持つ世代の教師が議論を牽引しました。

**平田先生** 20年5月には、改めて「湯高力」の必要性とそれを軸にした授業のあり方についての校内研修を行いました。資質・能力の育成につながる授業実践には、「湯沢高校生の目指す姿」に対する教師の深い理解が不可欠ですから、その後も様々な研修を実施しました。

**吉田教頭** 「湯高力」は、各授業において生徒の学びに変化を起こして初めて浸透したと言えます。私は物理の授業を担当していますが、定期考査の各問題に「湯高力」の段階を表示する試みを始めています(写真)。生徒の意識づけだけでなく、私自身の作問の姿勢にもよい影響を与えていると実感しています。

**小西雅典先生(教務主任)** これまでの学習は、ややもすれば、与えられた問題をただ解いていくだけの単調な営みに陥っていました。しかし、学習に興味や目標が見いだせれば、日々の学習にもっとメリハリがつくはず。その

図2 科目における「湯高力」のルーブリック(『国語総合』)

科目		国語総合【現代文・古典】		授業時数	適5単位
				履修学年・類型	1学年
目標 国語を的確に理解する能力を育成し、適切な表現を通して伝え合ふ力を高め、思考力や想像力を伸ばし、言語文化に対する関心を深める態度を身につける。					
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
湯高力	【知識・技能】	【課題対応能力】【論理的思考力】 【対話力】	【協働力】【自己管理能力】 【前向きにやり遂げる力】【公共心】		
活用(使える)	●語彙力と読解のための技法を使い、複雑な論理展開ができる。また、抽象度の高い語彙や表現を使いこなすことができる。 ●古典の読解を通して古代の知恵を自己のものにし、他の古典作品の読解に役立てることができる。	●複雑な論理展開や難解な表現を分析して、わかりやすく説明したり、自らの考えを論理的に表現したりできる。 ●他作品と比較しながら、その作品の特色をつかむことができる。	●広く社会に目を向け、現象から原理を導き出したり、因果関係を導き出したりする主体性や探究心を身に付けている。 ●現代の人の知恵を自己のものにし、現代の社会や人の在り方について探究しようとする力を身に付けている。		
学びの段階 利用(できる)	●論理の構成や表現技法を理解し、論理的文章や文芸作品を読むことができる。また、自分の考えを表現することができる。 ●古語や古典文法、古典の背景を踏まえて古典作品を理解することができる。	●論理の展開や表現技法を把握しつつ、文章の主題を的確に捉え、表現することができる。 ●既習作品の内容を踏まえ、他の古典作品を読むことができる。	●論理的・効果的に、自分の考えを他者と伝え合おうとする力を身に付けている。 ●古典作品を自ら手に取り、古代人の知恵や歴史を眺めようとする力を身に付けている。		
習得(わかる)	●語句の意味や基本的な文法の意味を正確に理解し、ついで、「話す・聞く・読む・書く」ができる。 ●古代の語句や基本的な文法を理解し、古典を読むことができる。	●基礎的な語彙力・文法力に基づき筋道を立てて考え、それを表現することができる。 ●基本的な語彙力・文法力に基づき、文脈を捉えながら内容を捉えることができる。	●積極的に語彙力を高め、話し・聞き・読み・書き、言語生活を豊かにしようとする態度を身に付けている。 ●古典の世界に関心をもち、文学作品に触れようという態度を身に付けている。		
評価方法	・授業時の観察 ・小テスト ・定期考査	・授業時の観察 ・定期考査 ・実力テスト	・授業時の姿勢や意欲 ・自主的な取り組み		

意味では、「湯高力」を各科目のルーブリックに落とし込み、評価方法も一覧化したのは大きな一歩です。今後は、さらに各単元の目標も「湯高力」で提示することにより、授業は大きく変わっていくと思います。

**小松弘樹校長** 私は20年度に本校に赴任しました。既に改革は始まっていましたから、私は、先生方に高い視座を持ってもらうことを心がけました。そして、探究学習やICT活用の先進校の教師や管理職、さらにファシリテーションの専門家を学校に招き、研修会を行いました。

19年度末には、すべての科目において、育成を目指す資質・能力の到達状況を3段階で示し、評価方法を一覧化。20年度は、授業改善につながるよう、公開授業、研究授業などの機会に、「湯高力」の育成を目指した授業のあり方を各教科で話し合った。

※学校資料をそのまま掲載。



校長  
**小松弘樹**  
こまつ・ひろき

教職歴35年。同校に赴任して1年目。



教頭  
**吉田 功**  
よしだ・いさお

教職歴32年。同校に赴任して2年目。理科（物理）。



教務主任  
**小西雅典**  
こにし・まさのり

教職歴31年。同校に赴任して1年目。数学科。



探究活動推進委員  
**田口朋美**  
たぐち・ともみ

教職歴20年。同校に赴任して2年目。芸術科（美術）。



教務部・  
探究活動推進委員  
**平田恵子**  
ひらた・けいこ

教職歴18年。同校に赴任して3年目。国語科。

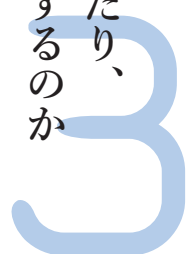
※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

## A<sub>3</sub>

これまでの取り組みを評価・検証し、現行課程の教育活動を充実させながら、新課程1期生を迎える準備を進める

## Q<sub>3</sub>

新課程1期生を迎えるにあたり、21年度はどのような1年とするのか



### 授業を中心とした 教育改革を推進

**小西先生** 22年度から始まる新課程の編成を進める中で、今まで以上に授業中心主義を徹底させるため、1コマあたりの時間を見直すとともに、朝補習を廃止することになりましたが、朝補習の廃止や授

業時間の見直しは、22年度を待たずに今年度から先行して実施します。一つひとつの授業のねらいを意識しながら主体的に学ぶことで、補習に頼らなくても「学力」を含む「湯高力」は向上させることができるということを、生徒に強く発信していきます。

**小松校長** 「湯高力」の生徒への浸透の状況を見ながら、「湯高力」そのものや、ルーブリックの改良を図っていきます。特に、「湯高力」が、教育活動の本丸である授業の改善に結びついているのかをしっかりと見ていかなければいけません。そのためにも、「湯高力」を単元別の授業計画に落とし込み、観点別学習状況の評価の検討と実践を通じて、学校全体の教育改革を推進することが最大のテーマとなります。特別活動や「総合的な探究の時間」にも「湯高力」をひもづけ、各活動の充実を図り、授業と往還させながら、生徒に資質・能力を豊かに育んでいきたいと考えています。

新課程に関する情報は、  
『**ハイスクールオンライン**』で  
お届けします！



事例・解説

観点別学習状況の評価のポイント  
新教育課程の参考になる特設コーナー設置



動画解説

有識者による  
新課程の動画解説も満載

大阪府・私立興國高校

## 組織的な学校改革

全教師によるボトムアップの改革で、学校存続の危機を乗り越え、一人ひとりの希望進路を実現



### 学校概要

- ◎設立 1926 (大正15)年
- ◎形態 全日制／普通科・ITビジネス科／男子校
- ◎生徒数 1学年約750人
- ◎2020年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、京都大、大阪大、神戸大、広島大、札幌医科大、大阪市立大、大阪府立大などに91人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西医科大、関西大、近畿大、関西学院大、兵庫医科大などに延べ約800人が合格。

### 変革の背景

志願者の急減を受けて、  
全校での大プロジェクトが始動

毎年2500人以上いた、大阪府・私立興國高校への志願者数が2000年度高校入試で半減し、同校に激震が走った。少子化がその一因ではあったが、理由はほかにもあった。普通科と商業科を擁していた当時の同校は、特色を打ち出せておらず、大学進学実績も低迷。生徒指導に苦慮する場面も多く、地域から問題を指摘されることもあった。

「このままでは、学校の存続にかかわる」と、強い危機感を抱いた草島葉子理事長(当時、

事務局長)は、先代理事長とともに、全校に呼びかけて学校改革に乗り出した。まず、全教師が学校案内を手に中学校を訪問し、同校に対する評価を肌で感じ、危機感を共有した。そして、「学園改革プログラム推進組織」として、「学力不振・習熟度別学習検討」「国際化検討」などのテーマごとに10のチーム(図1)を立ち上げ、全教師がいずれかのチームに所属するようにし、それぞれのテーマに関する現状と今後の対応を議論した。その結果、実に50に及ぶ取り組みが実行された。

「各取り組みは、すべて教師が企画しました。その実行においては責任を伴う半面、自分が学校にとって重要な役割を果たす存在であることを認識できるため、やりがいにつな

### 変革の一手

教師の生徒への思いを形に、  
現場主導でコース改編に取り組む

改革の端緒となったのは、01年度に行われた商業科の「ITビジネス科」への改編だ。

がります。自ら考え、行動する創造的な教師集団に生まれ変わったことが、改革を進める大きな力になりました(草島理事長)。

自走する教師集団によるボトムアップの改革が学校を活性化させ、大学進学者数も増加。一時1000人を切った全校生徒数を2300人にまで回復させた。その軌跡を見ていく。

図1 10のチームと取り組み内容(抜粋)

チーム名	取り組み内容
アドバンス (特進) コース検討	「学力を伸ばし、結果を出す」ことを目標に、それまでになかったカリキュラム編成と、それに伴う教師の準備について検討。3年間の学習スケジュールを具体的に作成し、生徒に提示する。
学力不振・ 習熟度別学習 検討	学力不振者に対する具体策として、学習スタイルの転換、教材の選び方などについて検討。工夫された特色ある指導を考える。
ITビジネス科 検討	商業教育の未来形を常に考え、より実践色を濃くした教育活動を検討。特に、学校内でも先駆者的な取り組みが望まれる。
本校独自 設定科目 検討	生徒が「分かる授業」「参加できる授業」づくりを目的に、教科・科目の捉え方を改め、教科書重視から、本校らしい教科教育を構築する。
生徒・保護者・ 家庭指導 かわり検討	生徒との接し方、保護者との連携について、全教師で統一したスタイルを検討する。保護者への新聞作成は急務とする。
国際化検討	本校で取り組みが遅れていた国際化に対応するための教育を導入する。語学研修やホームステイ等の実施も検討。
クラブ活性化	本校の強みである部活動をより活性化させるための仕組みを構築する。重点クラブの強化、施設の有効利用についても要検討。
クオリティー コントロール 推進	生徒や保護者が「どう捉えているのか」「何を望んでいるのか」を調査し、本校が真に求められている姿を的確に把握する。
担任体制 検討	3年間持ち上がり担任体制を検討。各学年の指導方針を明確化し、生徒が個性豊かな教師とより多く触れ合う機会を得られるようにする。
教職員 活性化 取り組み	学校として統一した業務スタイルの構築を検討。PTAや同窓会との連携、教職員のメンタルヘルスケアなどに取り組む。

※学校資料を基に編集部で作成。

簿記などの資格取得だけでは他校との差別化は図れないと判断し、ICT教育にも力を入れる学科にした。資格取得についても、取得後を見据えた指導に重点を置いた。例えば、3年次の探究学習では、1年次に学んだ簿記の知識を応用して企業分析を行い、ICTを活用して発表するカリキュラムを導入した。さらに、19年度には、従来のITアドバンスコースに加え、大学とも連携しながらプログラミングを学ぶゲーム&デジタルワークスコースを立ち上げ、社会状況に合わせて学びを進化させた。

同科の卒業生の進路は、以前は専門学校進学や就職が大半だったが、現在は難関国公立大学に進学する者や公認会計士を目指す者もいる。資格取得後を見据えた指導で生徒の学習意欲を高めるとともに、後述のアセスメントの活用により、生徒の可能性を引き出せていることが進路の変化の要因であると、ITビジネス科主任の大山直樹先生は語る。

「当時ICTに詳しくなかった私は、学科改編に戸惑いました。それでも、学校が変わるためには教師が変わるしかないと考え、学科一丸となってカリキュラム開発や教材研究を

進めました。資格取得だけが目標になりがちな生徒に、取得した資格の生かし方を考えられるような指導ができていなかったことを問題視し、真正面からその解決に尽力しました」

学科改編への挑戦は、トップレベルのスポーツ活動と大学進学との両立を目指すアスリートアドバンス(AA)コースの誕生につながった。部活動が盛んな同校の強みを生かしつつ、学力・進路を保障し、生徒の可能性を広げたいと願った現3学年主任の宇渡智之先生が企画し、管理職に提案。08年度に新設された。

「スポーツだけに秀でた生徒を育てることは、保護者も私たちも望んでいません。強豪の部活動の顧問も、思いは一緒です。難関大学の一般選抜にも対応する文理別・習熟度別授業の体制を整え、文武両道のコースを新設することができました。模擬試験も、受験に向けた調整は簡単ではありませんが、全員が受験します。新コース設立を実現できたことは、私の自信になっています」

改革が実り、現在、同コースは難関大学合格者や日本代表レベルのプロスポーツ選手を多数輩出している。進学後もスポーツに打ち込みながら、セカンドキャリアを意識し、大学院進学や資格取得を目標に勉学に励む「文武両道」の卒業生の姿は、生徒には理想に、教師には誇りとなっている。

同校の特色の1つとなっている放課後の学舎「KOKOKU寺子屋」も、プロジェクトから生まれた。大学入試対策や資格取得、英語などの語学、料理やピアノなどの実技の中から、生徒は1日1講座を受講できる。生徒の興味・関心を広げ、主体的に学ぶ姿勢を育むことがねらいであり、ここで才能を開花させ、自信を深める生徒が現れている。

また、教師一丸となって生徒指導に力を入れてきたことが、同校の躍進の1因であると、2学年主任のウエルチ春雄先生は語る。

「教師によって指導の基準が異なると、生徒は反発します。教師が時間厳守や身だしなみについて同じ基準を持ち、その大切さを粘り強く説明すると、生徒は理解を示すようになります。一方で、生徒本位を第一に、時代の変化に合わせて指導方針の見直しもしています。例えば、以前は持ち込み禁止だったICTデバイスも、リテラシー教育を重視した上で、現在は積極的に活用しています」

### エビデンスに基づいた指導で、希望進路実現への挑戦を後押し

17年度には、全生徒の希望進路の実現に向けて、進学指導部の主導による学力向上策に本格的に着手した。当時は学習習慣が身につけていない生徒が多く、指定校推薦入試（現・

学校推薦型選抜）で進学した卒業生が大学を中退してしまうケースが散見されたからだ。

まず、基礎学力不足が大学中退の要因であると考え、一部のコースのみで実施していた模擬試験を全コースに導入。学校全体でエビデンスに基づいた指導を強化した。着目したのは、GTZ（\*1）のD3の数だ。その数を減らそうと、全コースで朝学習を実施。基礎学力の定着を目指し、英単語テスト、朝学習での課題をその日のうちに提出する「毎日課題」、社会に目を向けることを意図したNIE（\*2）などを行った。

さらに、指定校推薦入試希望者に対して、年10回を超える補習とガイダンスを実施。教材を忘れたり、遅刻が続いたりした場合は、推薦の取り消しも辞さないことを示すとともに、推薦入試の合格者にもセンター試験の受験を奨励した。

難関大学の受験指導も、全コースで模擬試験を実施したことで変わった。コースにかかわらず、学力の高い生徒を把握し、その情報を学年団で共有して、面談などで生徒の背中を押した。そして、生徒の学力に応じた個別指導を徹底した結果、すべてのコースで大学進学希望者数が増えていった。進学指導部長の高橋亮先生は、そうした指導が可能になった要因を次のように語る。

「担任は、生徒との面談で授業態度や家庭



理事長・校長  
草島葉子 くさじま・ようこ  
同校に赴任して25年目。



進学指導部長  
高橋 亮 たかはし・りょう  
教職歴13年。同校に赴任して11年目。国語科。



1・2ビジネス科主任、1学年主任  
大山直樹 おおやま・なおき  
教職歴24年。同校に赴任して24年目。商業科。



2学年主任  
ウエルチ春雄 うえち・はるほ  
教職歴16年。同校に赴任して16年目。英語科。



3学年主任  
宇渡智之 うわたり・ともゆき  
教職歴19年。同校に赴任して19年目。国語科。



英語科主任  
松田真平 まつだ・しんぺい  
教職歴21年。同校に赴任して7年目。英語科。

学習の方法、模擬試験の結果などを確認し、生徒一人ひとりの学習状況を丁寧に見取るようにしました。そうして把握した各クラスの状態は、週1回の学年会で共有されるとともに、重要事項は学年主任会議に上げ、他学

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

\* 1 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」までの15段階で評価される。

\* 2 新聞を活用した教育活動。

図2 「自己目標」設定シート(1年生の記入例)

1年生3学期 始業式・終業式

1年( )組( )番 名義

2学期・冬期休暇を振り返り、学年最後の学期に向けて自己目標を再確認しよう!  
(3学期・始業式)

冬期休暇を振り返って、「積極的に取り組めたこと・担任に連絡したいこと」を書こう!

英検の対策として、英単語の勉強やリスニングの対策をした。

自己目標と方法

3学期中に達成すること	どのように取り組むのかを書こう!
学習面	学習面
期末テストで平均点を取る	理解力以外の弱い所を再学習しよう
を目標とする	使い、理解や生かすようにする。
生活習慣	生活習慣
1年間で朝早起きできるようにする	変更なしで、筋トレなどを積極的にしよう。
勉強を!	

1年間の振り返りと進級後の目標を考えよう!  
(3学期・終業式)

欠席日数	遅刻回数	早退回数	評定平均値
1回	0回	0回	(前) 4.5
学級活動	課外クラブ	取組検定	
図書係	軽音楽部	漢検:準2級 英検:準2級 その他:数検3級	

自己評価と目標

1年間を振り返って、勉学・友人関係・課外活動などで、自分の満足度はどうでしたか。

評価

a. 大満足である    b. 満足している    c. あまり満足していない

この学年の反省をふまえて、次の学年に向けての達成目標を立てよう。

目標

1. スペースを減らし時間を減らし、その時間を勉強に当てる!

担任からのアドバイス

学習に対して、真面目に取り組む姿が見えてきた。頑張った。でも、数学科に対しては、もっと取り組むこと。次はそこを頑張ろう。頑張れ、頑張れ。

2. 生活習慣(朝早起き)をしよう。朝早起きしよう。

2001年度の改革当初から、全学年・全コースで導入している『自己目標』設定シート。現在は、学期の初めに、目標とその達成に向けた取り組みを書き、学期末に、目標の達成状況の確認と改善の方向性の検討、目標の振り返りを行い、長期休業中の目標について記入する書式にしている。20年度の1年生3学期のシートでは、2学期と冬季休業中の行動を振り返り、3学期の目標とその達成に向けた方法を記入させ、3学期末には、1年間の振り返りとして出席状況や成績などを振り返った上で自己評価を行い、2年生に向けた目標を立てさせた。そして、それを担任が確認し、進級に向けたアドバイスを送った。

※学校資料をそのまま掲載。

年からアドバイスを受けられるようにしました。エビデンスに基づいた生徒個々の学習状況を、管理職を含めて学校全体で共有していることが、本校の強みです」

英語の指導も17年度から強化している。定期的な英単語テストによって学習習慣の定着を図るとともに、全コースでGTECや英検などの外部検定試験を導入し、英語4技能の育成も図っている。また、英語が苦手な生徒でも学習しやすいようにしようと、4線で構成された教科書本文用と単語学習用の2種類の学校独自の英語ノートを作成。全生徒に配

布し、徹底的な基礎固めを行った。ノートの使い方が上手な生徒は、終業式で全校生徒の前で表彰するアワードタイムをつくり、英語の学習意欲を高めるよう努めた。英語科主任の松田真平先生は次のように語る。

「英単語テストや外部検定試験、英語ノートは、生徒が学習成果を実感し、学習意欲を高めることにつながっています。成果が出たことで自信を持ち、他教科・科目の学習にも前向きに取り組むようになった生徒も多く見られます。今後は、海外進学も視野に入れた指導をしていきたいと思っています」

## 変革の成果・展望

自立・自律を促す指導を強化し、自ら成長できる生徒を育む

一連の改革により、京都大学を始めとした国立大学合格者数が急増。卒業生の大学中退率も激減した。ITビジネス科の卒業生が進学先の大学で学部長賞を受賞するなど、大学での活動を誇らしげに報告するために母校を訪れる卒業生も増えた。

「学力的に厳しいと思っていた先輩が難関大学に合格し、進学後も輝いている姿に、在校生も教師も自信を深めています。難関大学合格は遠い夢だと尻込みしていたのは、我々教師だったのだと痛感しました」(高橋先生)

今後の課題は、『自己目標』設定シート(図2)やルーブリックなどを活用しながら、生徒の自立・自律を促す指導を強化していくことだ。

「本校は面倒見がよいという評価を学外からいただいています。第1志望にこだわらず、自ら情報を集め、自身の夢を語る生徒が現れるなど、自立した姿も見られるようになってきます。すべての生徒が夢や目標を見つけて自ら成長していけるような環境を整備していきたいと考えています」(草島理事長)



## 学年団を訪ねて

# 進路指導ストーリーの共有を徹底 大所帯でも「温度差」なし

北海道・私立札幌光星中学校・高校 高3学年団

大学入学共通テストの実施を  
始めとする様々な制度変更が  
ある2021年度大学入試に、  
生徒も教師もどのように向き  
合えばよいのか—具体的な情  
報が少ない中、学年主任の  
三浦先生が重視したのは、一  
つひとつの教育活動の目的を  
学年団で共有すること、そし  
て生徒への重要なメッセージ  
を、15クラスすべてにおいて  
同じ熱量で伝えることだった。



### 直面した課題

◎三浦学年団は、生徒数が過去最多  
の約550人、クラス数が15となる  
中、同学年団に参加した教師には、  
担任経験の豊富な教師が少なかつ  
た。

◎大学入学共通テストの導入など、  
高大接続改革が進む一方で、各大学  
の入試の具体的な内容が見えず、手  
探りの状態で進路指導をスタートし  
なければならなかった。

### 学校概要

「地の塩、世の光」を校訓とし、キリスト教  
の教えに基づいて、他者の幸せのために力を  
発揮でき、世の中をよりよくしていける人材  
の育成を目指す。中学・高校での学びは将来、  
平和で豊かな社会をつくり上げるために生か  
されることを生徒に繰り返し伝えながら、生  
徒一人ひとりの志望を実現するため、希望進路に合ったコース分けと少人数  
制指導を取り入れたきめ細かな教育を行う。フェンシング部、ゴルフ部、  
テニス部などは、全国大会出場経験を持つ。



設立 1934 (昭和9)年

形態 全日制/普通科/共学

生徒数 3学年約1100人 (高校)

2021年度入試合格実績 (現浪計) 国公立大は、旭川医科大、北海道大、  
東北大、筑波大、大阪大、札幌医科大などに163人が合格。私立大は、上智大、  
中央大、東京理科大、明治大、早稲田大、関西大などに合格。

## 伝えるべきメッセージを 同じ熱量で全生徒に伝えたい

北海道・私立札幌光星中学校・高校の2018年度・高校1学年団は、それまでの学年団とは様々な点で異なるスタートを迎えていた。同校への入学志願者の増加により、高校1学年は15クラスと過去最多、担任15人のうち、高校3年生の担任経験のない教師が7人で、うち5人は担任そのものが初めて……。21年度大学入試から実施される大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の受験生を育てる学年団のリーダー、三浦利文先生は、「3年間かけて生徒がどのように育っていくのか、私たちはどのように生徒を支援すべきなのか、そのイメージを、まずは学年団で共有したいと思った」と振り返る。

「初担任の先生が多いことは、あまり気にしていませんでした。誰でも『最初』はあるわけですから。気がかりだったのは、クラス数の多さでした。共通テスト対策やポートフォリオの整備、さらに探究学習など、学年団として取り組むべきことが山積する中で、各大学の入試の具体的な内容がまだ見えていない状況でした。だからこそ、浮き足立つことなく、どのように生徒を成長させるのかを、一つひとつの教育活動の目的とともに、しつ

かりと学年団で共有したいと考えました」

まず、三浦先生は、職員室の机の配置を変えるところから始めた。学年主任で英語科の三浦先生の近くには、外部検定試験対策を始めとする新たな課題に直面していた英語科の教師の席を配置し、いつでも気軽に話ができるように配慮するなど、同校の慣例と異なる配置を検討した。

各担任に持ち味を發揮してもらいながら、大所帯であっても、学年として伝えるべきメッセージは全生徒に同じ熱量で伝えたい。特に進路指導においては、担任間で温度差があると、3年後、生徒の進路意識の差も大きくなり、「団体戦」として受験に向き合うことができないことは、経験を通して分かっている。生徒の希望進路実現に向けて、教師と生徒が一丸となって歩むための羅針盤が必要だ……。そう確信した三浦先生が3年間を通して重視したのが、学年集会と学年通信だった。

### 学年集会と学年通信を通じて 進路実現のストーリーを描く力を育て

1学年時、学年集会は毎月1回、時間割に組み込まれて必ず実施された。生徒にメッセージを伝えるのは、学年団に所属する教師の1人であり、進路・学習指導部にも所属す



## 学年主任に聞く！ 7つのQ&A

**Q** どのようなチームを目指しましたか？  
**A** 先生方に安心して仕事をしてもらえ、チームです。

**Q** リーダーとしての信念は何ですか？  
**A** リーダーに任せて、思い切りやらしてもらって、責任は自分が取る、です。

**Q** 学年団としての「成功」は？  
**A** もちろん、生徒全員が希望進路を実現することです。

**Q** 学年主任として自覚する  
長所は何ですか？  
**A** 難しいなあ……。細かいことはうるさく言わないところ、でしょうか。

**Q** 学年主任として自覚する  
短所は何ですか？  
**A** 集中している時に声をかけられると、対応が素っ気なくなってしまうことがあるようです。

**Q** 学年団を迎えた最大のピンチは？  
**A** コロナ禍で臨時休業になったことです。

**Q** この学年団は  
どんなチームになりましたか？  
**A** 若い先生に安心して任せられる、とてもよいチームになりました。

る中村大輔先生の役割だった。

「1か月後、3か月後にどうなるべきか、目指す状態から逆算して、この時点までにこうなっておこうと、生徒に、そして先生方に訴えました。担任が目の前のことに精いっぱいになってしまふのは分かりますが、進路指導という視点に立った場合、誰かが先を見通した発信をする必要があります」（中村先生）

学年団の1人、高澤昌稔先生は、「『ストーリー』という言葉の中村先生はよく使っていた」と、学年集会の様子を振り返る。

「目指す状態にたどり着くために自分はどうな道歩いて行くのか、進路実現のためのストーリーを描けるようになることが大切だと、中村先生は生徒に伝えていました。未来を今に引きつけて、一つひとつの活動が何のためにあるのかを理解して取り組むことの重要性について、私自身も理解を深めました」

目指す状態からの逆算がない指導は形骸化すると、中村先生は断言する。

「例えば、学習記録表や活動ごとの振り返りシートも、提出することが目的化すると、生徒は熱心には取り組まなくなります。なぜ今この活動に生徒が取り組むのか、この活動は1年後、2年後にどうつながるのかという進路実現のためのストーリーを教師が理解した上で、各クラスや生徒の実情に合った運用をしてもらいたいと思いました」

図1 学年団発行の学年通信（20年2月発行）



学年通信を書く際に中村先生が心がけたのは、「こうでなければいけない」と教師の考えを押しつけるのではなく、「あなたはどのように考えますか?」と、答えを生徒自身で出させる姿勢だ。教室では、生徒が学年通信の内容について語り合う様子も見られた。※学校資料をそのまま掲載。

週に1、2号の頻度で中村先生が執筆してきた学年通信も、生徒、教師の目線合わせのために欠かせないものだった。

「15人の担任を通して聞こえてくる、その時々々の生徒の言動に対する学年団としての思い、考えを書きました」（中村先生）

20年2月に発行された学年通信第62号では、中村先生は「塾・予備校に行くか成績が上がるのか」と生徒に問いかけた（図1）。3年生0学期を迎え、受験に対して焦りを感じたためか、塾や予備校に通うことを検討する生徒が現れ始めたからだ。学年団の1人、

津川容子先生は「当時、進路実現のためのストーリーを自信を持って描けなくなっていた生徒に必要なメッセージだった」と振り返る。

「第62号に記されたのは、安易に塾・予備校に依存するのではなく、『自分が今、取り組むべきことを自分で把握しよう』という、それまでも大事にしてきたメッセージでした。この学年通信の配布後、新型コロナウイルスの感染拡大により、臨時休業になってしまいました。自宅で1人で勉強しなければならなくなった生徒に、学年通信のメッセージは大きな意味を持ったと思います。臨時休業



## 学年団を訪ねて



**高澤昌稔** たかさわ・まさとし  
教職歴8年。同校に赴任して8年目。  
進路・学習指導部。英語科。



**津川容子** つがわ・ようこ  
教職歴10年。同校に赴任して10年目。  
生徒指導部。英語科。



**中村大輔** なかむら・だいすけ  
教職歴15年。同校に赴任して15年目。  
進路・学習指導部副部長。地理歴史・  
公民科。



**三浦利文** みうら・としふみ  
高3学年主任  
教職歴17年。同校に赴任して17年目。  
進路・学習指導部副部長。英語科。

は、生徒にとって、あるべき学びができるかどうか、実践する機会にもなったはずです」  
たくさんの書き込みが入った学年通信を、一冊にまとめた自身のファイルを手にも、高澤先生は「学年通信の内容を、生徒が理解しきれていないと感じた時は、自分なりの言葉で補ったり、生徒に質問して理解を促したりしました」と振り返る。三浦先生は、「生徒が3年生になる頃には、私が伝えたいことが、担任を通して確かな熱量を伴って生徒に伝

わっていると、手応えを感じるようになっていましたし、『これは大事だな』と私が思っていることについて、私が説明する前に先生方から質問や確認が来るようになりました」と、学年団の成長を語る。

### 学年団の教師が 互いの授業に足を運ぶ

学年団の結束が強まる中で、津川先生、高澤先生は、学年団の教師に自分の担当する英語の授業の参観を呼びかけるようになった。スピーキング指導に力を入れている2人の授業では、普段は発言が少ない生徒も、発表の際には堂々と英語で話す姿が見られたことから、各担当が担当する授業の中とは異なる生徒の姿を見て、生徒を多角的に理解する機会にしてみたいと思ったからだ。次第に、津川先生、高澤先生以外の学年団の教師の授業も見に行く教師が増え、生徒の様子が学年団での会話の中でそれまで以上に語られるようになった。

20年度、初めて3年生を担当した津川先生は、「同僚の助言に勇気づけられた」と語る。「共通テスト受験後の個別入試への出願について、学年団の先生方から、『全体に対する声かけは、よい結果が出ることを前提に行う

分、個々に対するフォローは、一人ひとりに寄り添って丁寧に行っていたいこう』『入試本番を迎えたからこそ、志望大学の可否の先にある、その生徒が目指しているものを大事にしていこう』と、助言をいただきました。私なりに自信を持って3年生に向き合えました」  
学年団のスタート時、全国規模の模擬試験の成績が、過去5年間で一番振るわなかった生徒たちは、21年度入試において、過去最多の国公立大学現役合格者数を記録するまでに成長した。約550人の生徒たちは、それぞれの進路実現のためのストーリーを描き、それを実現したのだ。

### \* 学年団 輝きのポイント \*

- \* 生徒に同じ熱量でメッセージを伝えることを重視
- \* 生徒の成長や進路実現を逆算したストーリーを学年団で共有
- \* 学年集会、学年通信で、生徒の状況に合ったテーマを発信

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

# 学校の危機管理の基本

解説者



日本女子大学  
教職教育開発センター  
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東  
京大学大学院法学政治学研究所  
公法専攻博士課程単位取得退  
学。1996年、日本女子大学に  
赴任。専門は、憲法学、公教育  
制度論。教職員支援機構などで  
スクール・コンプライアンス体  
制の確立に向けた活動を展開。

## 押さえておきたい学校危機管理の基本

- ✓ 「リスクマネジメント」「クライシスマネジメント」は、危機管理の両輪であり、双方をバランスよく備えておく。
- ✓ 年1回、必ず自校の「危機管理マニュアル」を見直す。
- ✓ 年度初めに、異動者も含めて、自校の危機管理を確認する研修を実施する。
- ✓ 危機を自分ごとと捉える想像力と、日頃のチームワークが、いざという時の迅速な対応につながる。

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、学校の危機管理への関心が高まっている。災害やいじめ問題、保護者対応など、様々な事案に対し、どのように備えておくべきか、学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する新連載。第1回は、危機管理の基本的な考え方について解説する。

### 危機管理の鉄則は、 想定外の事態を見越した備え

生徒が毎日元気に笑顔で登校することは、学校教育において何よりも重要です。また、生徒が学校の管理下にある間は、生徒の安全に対して学校に責任があるという判例は何度も出されています。しかし、安心・安全が日常的にあるが故に、非常時の備えが後回しになりがちな状況も否めません。そこで、危機管理は教育活動の大前提であることを、改めて学校現場と共有したく、本連載で解説していきます。

危機管理は、次の2種類に大別されます。

#### ◎リスクマネジメント

校内で起こり得る危機を想定し、それらを

未然に防ぐ環境や体制を整備すること。

#### ◎クライシスマネジメント

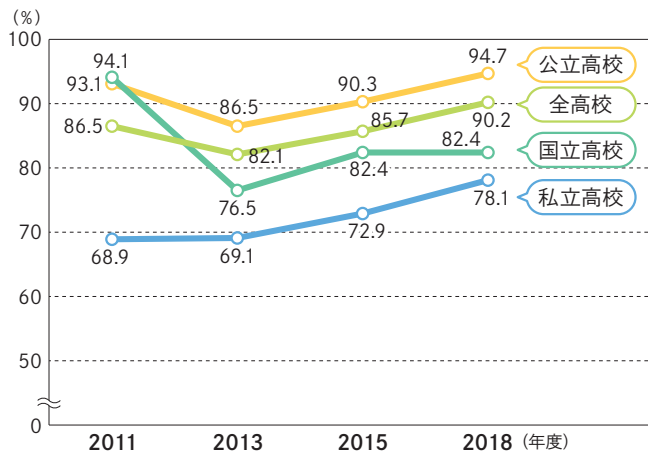
事故や事件、災害などの発生時に、被害を最小限にとどめるための対応と、事後に行う心のケアや再発防止策のこと。

この2つは学校危機管理の両輪であり、いづれも万全な備えが必要です。どんなに予防策を講じたとしても、残念ながら事故や災害等は起こります。想定外の事態を見越して準備する。それが、危機管理の鉄則です。

学校危機管理のよりどころは、2009年に施行された学校保健安全法です。同法では、事故や災害等において取るべき対応を明記した「危機管理マニュアル」の作成が、すべての学校に義務づけられました。文部科学省の調査(\*)では、その作成率は、公立高校は

\*「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査」(2018年度実績)。

図 定期的または必要に応じて危機管理マニュアルの見直しを行った学校（高校）



「危機管理マニュアル」の作成率は100%に近いが、見直しの実施率は多少下がる。特に私立高校は、約2割が見直しを行っていない(2018年度)。

※文部科学省「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査」(2011、2013、2015、2018年度実績)を基に編集部で作成。

### 教職員への周知徹底は 本当になされているか？

マニュアルは、その作成後も重要です。まず求められるのは、定期的な見直しです。全体の約90%の高校が、定期的または必要に

100%ですが、私立高校は約92%でした。マニュアルは、危機回避の行動を迅速に取れるようにするものであり、作成率が100%になることが望まれます。

じた見直しを行っています(図)、望むべくは年1回の見直しです。教師の異動や入学した生徒の状況、通学路の事情など、何らかの環境変化が生じるからです。例えば、通学路の周辺に商業施設ができれば交通量の増加が見込まれ、交通事故対策が変わるでしょう。また、社会の変化によって、新たな安全上の課題が生じることもあります。原子力災害や弾道ミサイル発射に係る対応など、危機と想定される事態が、文部科学省が数年おきに実施する調査(\*)の度に加えられています。

### 学校のチームワークや 保護者・地域との連携も重視

日頃の教職員のチームワークも、いざという時の対応を大きく変えます。管理職の出張中に事故が起きたり、深夜に地震が起きたりすることは十分考えられます。事前に決めた担当者が不在でも、役割を補充し合うチームワークがあれば迅速に対処できます。

また、学校保健安全法に示されている通り、地域や保護者との連携も重要です。災害時の生徒の避難先が記されている「危機管理マニュアル」は、保護者や地域とも共有した方が、事後の速やかな対処につながるでしょう。

新学習指導要領では、安全教育の重要性が改めて示されました。生徒に安全に関する資質・能力を育成することも、学校の危機管理の1つとして捉えてほしいと考えています。

マニュアルの教職員への周知徹底も忘れてはなりません。東日本大震災では、マニュアルはあったものの、教職員がその内容を知らずに行動し、危機に巻き込まれた事案が複数ありました。年度当初に、マニュアルを読み、各自の担当と非常時の行動を確認する研修を、異動者も含めて行うとよいでしょう。

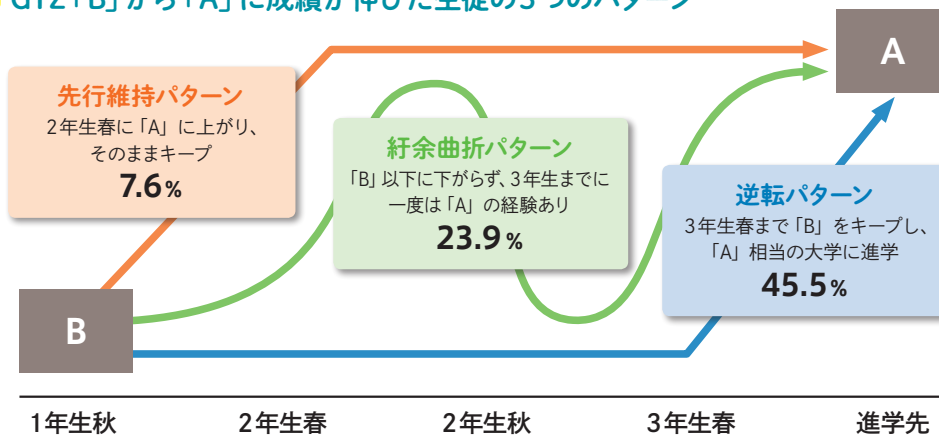
研修のキーワードは、「想像力」です。原則はマニュアルに沿いますが、臨機応変な対応が必要になる場合があるからです。

私が講師を務める研修では、具体的な状況を提示し、その最善策を考えるグループワークを行います。実際に起きた最悪の事態を示すと、大抵の先生は思考が止まってしまいます。だからこそ、その状況を自校にあてはめて想像し、どうすればよいかと考えてお

## 高い志望の実現には 「学習内容の俯瞰」が鍵に

ピックアップデータ ベネッセコーポレーション「スタディーサポート」

データ1 GTZ「B」から「A」に成績が伸びた生徒の3つのパターン



データ2 成長パターン別・学習の仕方と自主学習時間の推移〈2年生春→2年生秋→3年生春の推移〉

学習の仕方	ただ暗記するのではなく、理解して覚えるように心がけている (%)			重要なところがどこかを考えて学習するようにしている (%)			習ったこと同士の関連をつかむようにしている (%)			何から学習したらよいか順番を考えるようにしている (%)			自主学習時間 (分)		
	2年生春	2年生秋	3年生春	2年生春	2年生秋	3年生春	2年生春	2年生秋	3年生春	2年生春	2年生秋	3年生春	2年生春	2年生秋	3年生春
成長のパターン															
先行維持パターン	70	71	82	66	67	78	49	55	69	48	48	74	91	107	130
紆余曲折パターン	64	64	77	63	64	74	44	49	61	49	48	72	83	92	114
逆転パターン	58	58	72	60	60	71	39	41	54	46	49	68	67	75	98

注1) 2016年度高1、2017年度高2、2018年度高3、2019年度4月進学の生徒のうち、1年生秋、2年生春、2年生秋、3年生春の「スタディーサポート」と入試結果調査の5地点のデータのある48,866人のデータを基に算出。注2) 表内の(%)の値は、それぞれの質問に対する「とてもそう思う」と「ややそう思う」の回答率の合計。注3) 表内の(分)の値は、平日の自主学習時間の回答の平均値。

生徒の学力をS1からD3までの15段階で評価するベネッセの学力指標、GTZ(※)。「スタディーサポート」の受験者で一番多いのは、学力「B」の生徒だ。そのうち、1年生の秋は「B」で、最終的に「A」相当の大学に進学した生徒の成績推移を見ると、大きく3つのパターンに分かれる(データ1)。

3つのパターンの各生徒に見られる学習の仕方の変化について分析したところ、ある共通する傾向が見取れた(データ2)。それは、いずれのパターンにおいても、「ただ暗記するのではなく、理解して覚えるように心がけている」や「習ったこと同士の関連をつかむようにしている」など、学習内容を俯瞰的に捉えながら学ぶことができるようになる生徒の割合が、3年生の春までに増えているということだ。特に、2年生の春に「A」に上がり、そのままの成績をキープした「先行維持パターン」の生徒は、「ただ暗記するのではなく、理解して覚える」という学習の仕方を、より早く意識できていることが分かる。

高い志望を実現するためには、学習時間の確保だけでなく、学ぶ内容の意味的なつながりや学ぶべき順序を自分で考えられるといった、「質の高い学習」の仕方を身につけることが重要だ。その点を生徒に伝える際の参考データとして、本データをお役立ていただきたい。

\* ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。B3からB1までの「B」ゾーンの目安となるレベルは「4年制大挑戦レベル」から「国公立・中堅私立大挑戦レベル」、A3からA1までの「A」ゾーンの目安となるレベルは「国公立・中堅私立大合格レベル」から「ブロック大合格レベル」。

# For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に役立つ事例や情報を、先生方の思いを乗せてお届けする

P.42

発問・課題設定をキーに見る

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる  
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

現代文 北海道・市立札幌平岸高校 対馬光揮 つしまこうき

P.42

自ら問いを立て、考察してきた1年間の集大成として、「学ぶとは何か」と問いかける

地理 宮城県宮城第一高校 三浦 学

P.46

自分の疑問を基にした「問いづくり」と探究で、知識の習得と問題解決能力の育成を図る

P.50



SDGsの  
視点で見る  
大学の学び

持続可能な社会の実現に向けた  
問題解決に取り組む大学の研究とは？

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

解説 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

P.50

目標10 人や国の不平等をなくそう

大学の学び 目標9 高知工科大学

P.52

システム工学群 知能機械工学専攻 知能ロボティクス研究室

目標10 東洋大学

P.54

社会学部 社会福祉学科 加山ゼミ

P.56

これからの  
進路指導のための  
世の中トレンド解説

お勧めの分掌 ▶

進路担当

担任

生徒の将来に影響する社会の動きが「暮らす」「働く」「学ぶ」の視点で分かる  
トレンド・ワード DX (デジタルトランスフォーメーション)

P.60

誌上で見学  学びのnext

これから求められる学びとは？  
一歩先を行く授業を実践者が紹介

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

担任

言語技術教育

東京都・私立芝浦工業大学附属中学高校

日本語の4技能を体系的に学ぶプログラムで、  
思考と論理の基礎を身につける

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

# 現代文

自ら問いを立て、考察してきた1年間の  
集大成として、「学ぶとは何か」と問いかける  
北海道・市立札幌平岸高校 対馬光揮

## 10:45 生徒のレポートを素材文とした問題を解く



主  
深

生徒はまず、対馬先生作成の読解問題に取り組んだ。素材文は生徒が書いた『こころ』に関するレポートで、それを基に対馬先生が2題作問した。解答時間は5分間。答え合わせの後、素材文が生徒のレポートであることを明かし、問いは自身の中から生まれることを実感させた。

### 本時の概要

【対象・教科・科目】 2年生/国語/現代文B 【分野・単元】 小説/夏目漱石『こころ』  
【設定時数】 全15時間のうちの15時間目（P.45に単元の指導計画を掲載）  
【育成を目指す資質・能力】 思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性  
【学習内容】 『こころ』について生徒が書いたレポートを素材文とした読解問題に取り組ませ、「問い」への意識を持たせてから、現代文の1年間の授業を振り返って、「学びを実感した時」「学ぶとは何か」について個人で考察。その後、4人1組のグループで各自の考えを出し合い、共有した。

主 主体的な学び  
対 対話的な学び  
深 深い学び

## 11:14 グループで考えを共有



主  
対

4人1組で2つの問いについて考えを述べ合った。「根拠や論理が大切だと思う」「知識が増えるほど、他教科と関連していることに気づく」「社会で目標に向かって進んでいくための準備になる」など、生徒はメンバーの考えを聞きながら、大事だと思う点をワークシートに書き留めた。

つしま・こうき 教職歴5年。同校に赴任して6年目。国語科。「総合的な探究の時間」の統括も担当。従来の授業スタイルに課題意識を持ち、本質的な学びを追究している。

### 学校概要

◎ 1950年に設置された北海道月寒高校石山分校が前身。教育標語に「For the Best」を掲げる。2005年度、普通科にデザインアートコースを設置。15年度、ユネスコスクールに加盟し、カンボジアスタディツアーや寺子屋プロジェクトなどに取り組む。

◎ 設立 1980（昭和55）年

◎ 形態 全日制/普通科（普通コース・デザインアートコース）/共学

◎ 生徒数 1学年約320人

◎ 2020年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、小樽商科大、北見工業大、北海道教育大、室蘭工業大、弘前大、釧路公立大、公立千歳科学技術大、公立はこだて未来大などに29人が合格。私立大は、札幌学院大、北星学園大、北海学園大、北海道医療大、北海道科学大、女子美術大、多摩美術大、桐朋学園大、東洋大などに延べ300人が合格。

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。



11:00 「学ぶとは何か」を考察



主  
深

「現代文の授業で学びを実感した時」「学ぶとは何か」という2つの問いについて、個人で考察。「作者の伝えたいことを、以前よりも理解できた時」「知識を使って自分で新しい発想を生み出すこと」など、生徒は自身の考えをそれぞれワークシートに記入した。

10:55 問いを立てる大切さを伝える



深

對馬先生は、本時のメッセージである「問いは、人から与えられるものではなく、自分で生み出すもの」を提示。『山月記』『こころ』、人種差別問題に関する評論の読解などに取り組んだ1年間の授業を振り返り、「授業では問いが与えられるが、社会では自ら問いを立てる力が求められる」と伝えた。

11:30 本時の振り返り



主  
深

各自、本時で感じたことをワークシートに記入して提出。生徒は、「自分の考えを他者と共有できるのは幸せなことだと感じた」「複数の意見を知ることは、他者を傷つけない想像力を持つことにもつながると思った」「自分は学んでいるんだという実感を持てた」など、様々な気づきを書いた。

11:23 對馬先生の講評



深

對馬先生は、グループワーク中に机間指導を行った。その中で聞かれた声として、「簡単に納得しない」「疑うことが大事」「視野を広げる」などを紹介した。そして、先生自身が考える9つの学びの要素として、「興味関心・疑問・情報収集・知識・多角的・課題発見・課題解決・表現・愛」を挙げた。

●私が目指す授業  
学びの本質を追究しつつ、  
自分らしい授業をする

初任時から、資質・能力の育成を目指す授業を心がけてきました。原点は、大学時代の研究活動の中で経験したレポート作成です。そこでは、自分で問いを立て、必要な情報を収集し、根拠に基づいて、人に伝わるように表現します。その過程には、自ら思考するという学びの本質があり、社会で求められる力をつけることにつながったと感じます。そうした資質・能力の育成を目指す授業にすることで、高校での学びを、大学への通過点ではなく、社会への入り口にしたいと考えています。

学習内容が学びの本質から外れないよう、よりどころにしているのが、学習指導要領です。単元の目標は、学習指導要領で使われている表現で設定しています。授業が資質・能力の育成に結びついているか不安な時は、学習指導要領に立ち返ります。学びの本質を見失わないようにしつつ、私が面白いと思うことや、生徒の興味・関心がありそうなことを授業に盛り込むようにしています。

●私の発問・課題設定の観点

生徒が立てた問いを  
自分たちで追究する

私の授業は、本時の中心に据えた「問いは自分で生み出すもの」というメッセージを基調としています。普段の授業から、生徒自身が問いを立て、解決する活動を行っています。

本単元では、『こころ』の主人公や登場人物のKに関する疑問点を個人で考えた後、4人1組でテーマを決め、情報収集・整理を行い、読み取った内容をまとめ、発表しました。例えば、Kが自殺した理由が明記されていない点に着目したグループは、「Kはなぜ死んだのか」について追究し、Kが「道」にこだわったことに重きを置き、仏教の八正道の思想を切り口に考察を深めました。

生徒は、そうした問いを最初から立てられるわけではありません。1年次は、私が提示した問いを個人やグループで考え、「GPS-Academic」(\*)を利用したワークなどを通じて、視野を広げる練習を積み重ねました(図1)。

思考を深めるために最も重視しているのが、授業の最後に課すレポートです。自分との対話は他者との対

話と同様に大切であり、それが思考や読解の深さにつながると思っています。本単元では、グループワーク後に、個人のレポートを自由なテーマで書かせたところ、「なぜテーマ設定がうまくできないのか」を問いにし、小説の文章構造に原因があると分析したレポートを提出した生徒がいました。

レポート評価は、3段階としています(図2)。問い(テーマ)そのものは、評価対象にしません。あくまで収集した情報や根拠の確かさ、思考の深まりなど、レポートの内容の質を見ます。

定期考査では、教科書の素材文だけでなく、当該作品に関する評論などを素材文として出題し、汎用的な読解力を測ります。

また、教科横断型授業も行っています。特に、表現やアートを通して読解を深めたり、感性を磨いたりすることを重視しています。例えば、美術科と連携し、1年次には『羅生門』の場面を絵で表現する活動を、2年次には『伊勢物語絵巻』を使って場面や心情の読み取りを行いました。本単元では、英語科と連携し、イギリス人翻訳者と日本人翻訳者がそ

図1 思考力の育成

同校では、ベネッセの思考力測定アセスメント「GPS-Academic」を年1回実施している。対馬先生はそれを活用し、現代文で思考力(批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力)の育成を目的としたグループワークやGPSの事前・事後ワークなどを行っている。

グループワークの例

- ある行動を取る際のメリットとデメリットを比較する。
- 犯罪捜査と情報開示についての素材文を読み、自身の主張を論じる。
- A1に取って代わられる仕事は何かを考える。

図2 レポートの評価方法

レポートは、3段階で評価する。生徒が資質・能力を身につけられなまま学習が終わってしまった場合は、教師が責任を果たしたことになるかと考え、Cだった生徒は個別に指導し、レポートを再提出させて必ずBまで引き上げる。Bだった生徒は、書き直して評価基準に達していればAに引き上げる。一度で基準に達しなくても、努力次第で評価を上げられると思わせることで、学習意欲を高めるのがねらいだ。なお、レポートの評価が評定に占める比率は3割。

評価基準

A	授業の内容や収集した情報を踏まえて、根拠を示しながら自分の意見を記すことができています。
B	授業の内容を踏まえて自分の意見を記すことができています。
C	授業の内容を踏まえて自分の意見を記すことができていない。

※図1・2とも、対馬先生提供資料と取材を基に編集部で作成。

れぞれ英訳した『こころ』を提示し、両者の表現の違いから語句の意味や文脈の重要性を考えさせました。例えば、作品中の「きまりが悪い」という表現を、イギリス人翻訳者は「embarrassed(恥)」と、日本人翻訳者は「shy(内気)」と訳していました。どちらが適切かを問うと、生徒は「前者は道徳的な恥ずかしさ、後者は経験的な恥ずかしさなので、ここでは『shy』が適切ではないか」と、根拠をもって解答しました。

本時では、生徒が立てた問いを起

点に知見を広げ、考察を深めてきた1年間の授業を振り返り、「国語」という具体から「学習」という抽象に転換しました。他教科・科目を含めた今後の学習や日常生活での学びに意識を向けさせるために、「学ぶとは何か」という問いを立てました。

●成果と展望

授業での気づきを  
生活や社会で生かしてほしい

『こころ』には、Kの自殺を知った

\* ベネッセのアセスメントの1つで、問題発見・解決に必要な3つの思考力(批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力)を選択式、記述・論述式、質問紙で多面的に測るテスト。

主人公が「ふるえだした」場面があります。英語科との教科横断型授業では、「ふるえる」の英訳を『shake』『tremble』『shudder』のいずれを用いるべきか、答えが1つではない「問い」についてグループで議論させました。本時の生徒の振り返りには、「様々な分野の知識を取り入れると、さらに考えが広がり深まると思った」「自分の思いを相手に伝える時、もっと丁寧に言葉を選びたい」と書かれていました。ほかに、Kが語る「道」を、倫理の授業で学んだ道教の「道(タオ)」と結びつけて考えた生徒もいました。授業での学びを普段の生活や社会での活動、他教科・科目の学びに生かすことも意図しているので、そうした生徒の内省を見るとうれしく感じます。

今後の課題は、生徒の主体性を一層引き出すことです。レポートの評価がBの生徒は、書き直して基準に達すればAに引き上げていますが、自らの行動に移す生徒はまだ多くはありません。もっと深く考えたい、上手に自分の考えを表現したいと思、率先してレポートに取り組みむような主体性を引き出す授業を、これから目指していきます。

単元の指導計画

【教科・科目】国語・現代文B 【分野・単元】小説 【テーマ・作品】夏目漱石『ころ』 【設定時数】全15時間の中の15時間目  
 【単元目標】目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1 ~ 3	教科書に掲載されている素材文の前段を読み、登場人物の設定と関係性を読み取る。	文章を読み、構成や展開を的確に捉える。 【知識、技能、判断力、主体性】	①教科書本文の前段から抜粋した文章を読む。 ②「私」「K」「お嬢さん」の人物設定と関係性を把握する。	【主体的な学び】本単元の全体像を説明し、見通しを持たせた上で、各活動の目的と意味を伝える。	ワークシート
4	着目した文や疑問点を整理する。	主体的・批判的に文章を読む。 【技能、思考力、判断力、主体性】	①教科書本文を読む。 ②「私」の発言、または『私』について「私」の発言、または『K』について「その他」の3項目について、着目したことや疑問点を整理する。	【対話的な学び】解釈に正解はないことを伝える。	ワークシート
13 ・ 14	教科横断型授業を通じて、語句に着目し、文脈を捉え直した上で効果的に表現する。	語句に着目し、文脈を捉え直した上で効果的に表現する。 【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	①『ころ』のイギリス人翻訳者と日本人翻訳者の英訳の一部を記載したプリントを配布し、日本語と英語の表現を比較する。 ②「きまりが悪い」という表現を、イギリス人翻訳者は「embarrassed (恥)」と、日本人翻訳者は「shy (内気)」と、異なる訳をしているのはなぜか、どちらが適切かを、個人で考えた後、グループで議論する。 ③各グループの代表が発表する。 ④「私はがたがたふるえだした」という表現の英訳として適切な語句は、「shake」「tremble」「shudder」のいずれであるかを、個人で考えた後、グループで議論する。 ⑤各グループの代表が発表する。 ⑥2つの問いについて、自分の考えを再度整理して、ワークシートに書く。	【主体的な学び】今回の学習が本時にとどまらず、今後の学習にも関連することを伝える。 【対話的な学び】個人で思考する時間を十分に確保してから、意見交換を行う。 【深い学び】教師による説明を通じて知識を与え、個人で思考し、他者と意見交換した後に、再度個人で考える活動に戻すことによって、視野の広がりを実感させる。	活動の様子 ワークシート
15	これまでの授業を振り返り、「学ぶとは何か」を考える。	ものの見方、感じ方、考え方を深め、人生を豊かにする態度を育てる。 【思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	①素材文は生徒が書いたレポートであることを伏せて、読解問題に取り組みさせる。 ②答え合わせをしてから、素材文の種明かしをし、問いは自分の中にあることを説明する。 ③1年間の授業を通じて学びを実感したタイミングでこれまでの学習を振り返り、「学ぶとは何か」を考える。 ④4人1組となり、各自の「学ぶ」を発表する。 ⑤グループワークで上がった声を紹介するとともに、教師自身の「学ぶ」も伝える。 ⑥本時の振り返りを書く。	【主体的な学び】生徒が書いたレポートを素材文にした読解問題で好奇心を刺激し、学習を自分ごととして捉えられるようにする。 【対話的な学び】同じ体験でも、人によって感じ方が異なることを実感するとともに、「学ぶ」についても多様な捉え方があることに気づく。 【深い学び】自己の振り返りと他者との意見交換によって、これまで感覚的に捉えていた事柄を明確にし、自己の内にあった「学ぶ」を再発見させる。	活動の様子 ワークシート

※対馬先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全15時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(https://berd.benesse.jp/)からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

主体的・  
対話的で  
深い学び

授業実践

# 地理

自分の疑問を基にした「問いづくり」と探究で、  
知識の習得と問題解決能力の育成を図る

宮城県宮城第一高校 三浦学

## 9:40 問いづくりの視点を提示



三浦先生は、「地球温暖化につながる行動は何か」「あなたの日常生活でちょっと工夫をすれば地球温暖化防止につながる行動は何か」と2つの問いを例示。生徒に文の構成や表現の違いに目を向けさせ、「回答者のことを考えた整理と表現を意識して、問いをつくろう」と説明した。

### 本時のキー課題

## 10:00 問いの転換に取り組む



優先順位の高い3つの問いを、OQはCQに、CQはOQに転換する課題に取り組んだ。三浦先生は「思考回路を切り替え、見方を変えよう」と呼びかけた。「教え合うことの意味と重要性は何か」というOQを「教え合う授業は面白いのか」というCQにするなど、ペアで話し合いながら取り組んだ。

### 本時の概要

【対象・教科・科目】 2年生/地理歴史/地理 A  
 【分野・単元】 1年間の学習の振り返り 【設定時数】 全2時間のうちの2時間目  
 【育成を目指す資質・能力】 思考力、判断力、表現力、表現力、問題解決能力、主体性、多様性、協働性  
 【学習内容】 生徒は、前時に作成した問いを、問いづくりの視点を踏まえて見直すペア活動を行った。そして、見直した問いのうち、特に考えたい問いについて、オープン・クエスチョン（以下、OQ）はクロースド・クエスチョン（以下、CQ）に、CQはOQにペアで転換させていった。

主 主体的な学び  
 対 対話的な学び  
 深 深い学び

**みうら・まなぶ** 教職歴 20年。同校に赴任して1年目。地理歴史・公民科（地理）。2学年担任。情報化推進リーダー。様々な書籍や外部研修、他校視察を通じて研鑽を積み、現在の指導スタイルに至る。

### 学校概要

◎ 仙台市高等女子学校として開校し、県の女子教育の中核を担う。2008年度、男女共学・単位制に移行し、現校名に改称。少人数授業・習熟度別授業を実施し、生徒の希望進路実現を支援している。宮城県教育委員会が推進するICT活用事業を導入し、20年度からはタブレット端末を活用した教科指導を推進している。

◎ 設立 1897（明治30）年

◎ 形態 全日制/普通科・理数科/共学

◎ 生徒数 1学年約 280人

◎ 2020年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、北海道大、東北大、宮城教育大、山形大、筑波大、お茶の水女子大、東京農工大、宮城大などに129人が合格。私立大は、東北医科薬科大、東北学院大、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ532人が合格。

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。



### 9:55 問いを分類し、優先順位をつける



「ヨーロッパの気候に大きく影響している風と海流名は？」  
「地図記号は新しく作られているか」などの問いを作成した生徒たち。それらの問いを自由に解答できるOQと、「はい・いいえ」など、解答が限定されるCQに分類し、ペアで相談をしながら考えてみたい問いの優先順位をつけた。

### 9:47 前時に作成した問いを見直す



生徒は、前時に作成した問いを見直す活動にペアで取り組んだ。「相手が解答を具体的に考えられるよう、問いの意図が明確に伝わる文にしよう」と三浦先生。タブレット端末から、三浦先生や生徒同士で参照可能なシートに問いを入力し、ペアの相手に意見をもらい、問いの文を練り直した。

### 10:15 1年間の振り返りをまとめる



1年間の授業で学んだことをタブレット端末からシートに入力した。地理の知識だけでなく、ペアワークや問いづくりから学んだことを入力する生徒が多かった。「新年度に向けて一言」の項目では、「『受験』というワードは禁止」とし、生徒に大学入試以外の学びを意識させた。

### 10:10 問いの転換のためのヒントを出す



自身のタブレット端末で生徒のシートへの入力状況を確認しつつ、生徒の表情などを観察する三浦先生。入力が滞っていた生徒のタブレット端末の画面をのぞき込み、「『砂漠が』という文で始めたら？」とヒントを出した。生徒はしばらく考えた後、何かを思いついたように入力し始めた。

●私が目指す授業

生徒のすべての学びが  
社会へとつながる授業に

前任校で授業にICTやグループワークを取り入れてから、書籍や外部研修、他校視察を通じて知見を広げ、授業改善を模索してきました。今、目指しているのは、生徒が社会とつながる授業です。新学習指導要領に示されている通り、生徒は持続可能な社会を実現する、その担い手です。学校教育の目的は、社会で活躍するために必要な資質・能力を生徒に育成することであり、教科学習でも、教科の知識・技能の習得だけでなく、社会で役立つ資質・能力が身につく学びが重要だと考えます。そこで、担当する地理の授業では、地理の知識に加えて、対話や表現の方法の習得、思考力や問題解決能力、協働性などの育成を目指しています。さらに、授業で扱う題材には、生徒が自己のあり方・生き方や、自分と社会との結びつきを考えられる視点を取り入れることを心がけています。生徒が社会人になった時、「この授業で学べてよかった」と思ってくれれば本望です。

●私の発問・課題設定の観点

自身で立てた問いの転換が、  
生徒を深い学びに誘う

授業の軸としているのは、教科書を読んで疑問に思ったことを生徒自身が問いの形にし、その問いの答えを自分で調べ、分かったことをクラスメートに向けて発表・共有する活動です。主体的な学びは、疑問を持つことから始まります。そして、疑問の解明のために、ペアやグループで対話的な学びを実践します。それは、現実の様々な問題解決の過程と同じです。そうした活動を通じて深い学びに到達し、社会で役立つ力が磨かれると考えています。

問いづくりは、QFT（図1）の手順で行いますが、最も重要な活動は、本時のキー課題に挙げた「問いの転換」です。作成した問いを、解答が限定されるCQと、自由に解答できるOQに分類し、CQはOQに、OQはCQに転換します。

問いを転換するためには、メタ認知能力や多面的な思考力が必要です。また、教科学習の観点では、OQをCQに転換するためには地理の知識が、CQをOQにするためには知識を広い視点で捉えることが求め

図1 問いづくりと振り返りの方法

QFT (The Question Formulation Technique / \*1)

問いづくりの方法の1つで、①問いを出し合う、②問いを分類する、③問いを転換する、④優先順位をつける、⑤問いを見直す/答えを探る、というプロセスから成る。本時では、③と④を入れ替えた。

ORID (\*2)

事実 (Objective Question)、感情 (Reflective Question)、解釈 (Interpretive Question)、決定 (Decisional Question) のステップで思考を促していく振り返りの方法。本時に行った1年間の振り返りでは、①授業で印象に残ったことは何ですか、②その時、どのように感じましたか、③そのことからどのようなことを学びましたか、④その学びをどのように生かしますか、という質問項目で段階的に振り返りが行えるようにして内省を促し、次の学習行動を具体的に考えられるようにした。

※三浦先生提供資料と取材を基に編集部で作成。

図2 定期考査の出題例

定期考査では、資料から必要な情報を読み取り、考察して解答する問題を中心に、約50問を出題する。各問題には、「知識・理解」「思考力」「表現力」「創造力」「資料活用力」と、どのような資質・能力が求められるかを明示。さらに、「表現力」を求める記述式問題には、評価基準も示している（出題例は下記参照）。生徒は、「定期考査は、暗記は通用せず、思考力が問われる問題ばかりです。資料を読み解いて答える問題が多い大学入学共通テストへの対応にもつながっていると思います」と語り、定期考査の出題の意図を理解していた。

◎定期考査の出題例

大問1問2(2) 地図6のAの地域に「今津町深清水」という地名があった理由を、扇状地の特徴から想像し、解答しなさい。解答にあたっては、扇状地の特色を説明すること。[知識・理解、思考力、表現力] 評価基準

0点	白紙解答。地名からの予想しか解答していない。
1点	教科書や資料集の扇状地の説明程度の解答である。
2点	扇状地での人々の生活について「水」「河川」と関連させ、自分の言葉で扇状地の3つの地域区分を解答している。

※三浦先生提供資料と取材を基に編集部で作成。

られます。いずれの転換も、新しい視点の獲得につながり、地理の見方・考え方が鍛えられます。例えば、生徒は、「北アメリカ西岸やオーストラリア南部、南アフリカ共和国南西部、チリの中部に分布する気候区の名前とその理由を答えなさい」というCQを、「緯度や山脈の影響を受けて地中海性気候が形成されるとあるが、オーストラリア南部や南アフリカ共和国南西部にはめばしい山脈がないのどうして形成されるのか」というOQに転換していました。

本時では、1年間の授業を通じて、もっと知りたいことや疑問に思ったことを基に作成した問いを転換するという課題に取り組ませました。生徒が作成した問いを見ると、地理の知識に関する問い以外にも、授業形態についての問いもありました。定期考査は、授業を踏まえ、地図やデータなどの資料から必要な情報を読み取り、考察して解答する問題が中心です。各問題には求められる資質・能力を明記し、記述式問題には評価基準も示しています（図2）。

●成果と展望

生徒の内省の過程を把握し、  
授業改善のヒントを得る

本時は、授業での1年間の学びを生徒自身がメタ認知し、3年次の学びに生かせるよう、ORID（図1）で段階的に思考を促し、内省を言語化するリフレクションシート（図3）を使用しました。生徒の内省の過程を把握することは、私にとっては授業改善のヒントを得る機会になります。生徒の記入内容を見ると、「新し

\*1『たった一つを変えるだけ クラスも教師も自立する「質問づくり」』（新評論）、及び「設計と実践のためのワークショップ」（主催：ハテナソン共創ラボ）を参考にした三浦先生による説明。 \*2「PBL実践のためのテーマ別講座：問いづくり編」（主催：こども国連環境会議推進協会）を参考にした三浦先生による説明。

く学ぶ内容でも、既習事項を思い浮かべ、関連づけて捉えるようになった」「問いの転換では、どの言葉を使えばより適切かを考えるようになった。それは、記述力につながると思う」などと自己評価していました。

授業で作成した問いや定期考査の解答、振り返りの内容から、生徒が知識を構造化して捉える意識を持ち、地理的な見方・考え方を身につけている様子がうかがえます。ある生徒は、「川から堆積物が流れてこの地形ができ、だからこの作物が栽培に適しているのだと、学習内容を関連づけて考えられるようになった」と話し、21年度大学入学共通テストの「地理B」に取り組んだ生徒は、「知識が十分でなくても、地図やデータをよく読み、考えたら、解答できた」と語っていました。

21年度の課題は、本時の冒頭で生徒に伝えたように、文の構成や表現をさらに意識して、より質の高い問いをつくれるようにすることです。そして、生徒間での意見の共有や調べ学習などを、ICTを利用して効率よく進められるようにしながら、生徒が社会とつながる活動をさらに充実させていきたいと思えます。

図3 本時で活用したリフレクションシート 生徒の記入例

1. 学びのリフレクション		2. 授業内容についてのリフレクション		
この1年で新たに学んだことや発見したことを、あえて3つ述べるとしたら、それは何ですか？		1年間、地理を学んでもっと知りたいことや疑問に思ったことは何ですか？振り返ってみてください		
① 宗教間の争いの具体的な内容		① SDGsと地理の結びつき	もっと知りたいことや疑問に思ったことを記入	
② 身近にある地形の名前		② 農工業での日本と外国のかかわりについて		
③ 風の循環の仕方		③ 風の吹き方を肌身で感じて実際の吹き方を知りたい		
④ 同じ単語の繰り返しが多く覚えることが思った以上に少ない		④ 砂漠の砂を作物が育つ状態に変えられないのか		
⑤ ペアワークやグループワークを通じて疑問点を見つけることで、理解がより深まること		⑤ それぞれがよい国なのに、戦争が起こるのはなぜだろう		
3. QFT (The Question Formulation Technique)		4. 1年間のリフレクション(名前)		
ルール① できるだけたくさん問いを出す	方法① 問いを出し合う	1. 授業で印象に残ったことは何ですか？ Objective question (事実)	2. その時、どのように感じましたか？ Reflective question (感情)	
ルール② 説明、話し合い、評価、回答は禁止(ペアでやってもらいます)	方法② 問いを分類	3. そのことから、どのようなことを学びましたか？ Interpretive question (解釈)	4. その学びをどのように生かしますか？ Decisional question (決定)	
ルール③ 意見や主張は疑問文に直す(5w1Hを利用するが、WHYは使わない)	方法③ 優先順位をつける/問いを交換する	5. 1年間の皆さんの地理の授業の自己採点とその理由	6. 次のステージへ向けて考える。新年度に向けて(受験ワード禁止)	
ルール④ 記録は問いを発言の通りに書く。	方法④ 問いを見直す/答えを探る	7. 何か一言！！	8. 今年度の日本の地理を学びたい。先生の授業の仕方を別の授業にも使って生かしていきたいと思った。	
番号	優先順位	自分たちで考えた問い(不足する場合は増やしてください)	OQ	CQ
1	6	今定められている気候区分は、誰が定めたのか		●
2	8	水河で削られたところに海水が入り込んだものを何というか		●
3	9	ヨーロッパの気候に大きく影響している風と海流名は？		●
4	10	ドラケンスバーグ山脈はど		●
5	2	砂漠で作物が育つ状態に		●
6	1	あなたはどのようなこ		●
7	4	SDGsの17のゴールは、どんな基準で選ばれましたか		●
8	3	教え合うことの意味と重要性とは何でしょうか		●
9	5	土と植生の地域ごとの違いは、どんな点で重要？		●
10	7	国同士の争いが起こる理由として、あなたはどのような面が一番の原因だと考えますか？		●
※問いの交換		ORIDで1年間の授業を振り返り、次の学びにつなげる		
番号	転換した問い	1. 授業で印象に残ったことは何ですか？ Objective question (事実)	2. その時、どのように感じましたか？ Reflective question (感情)	
6	あなたは地理の授業を面白いと思いますか	2030のSDGsのゲーム	おもしろかった	
5	普通の土と砂漠では、どちらの方が作物が育ちにくい	3. そのことから、どのようなことを学びましたか？ Interpretive question (解釈)	4. その学びをどのように生かしますか？ Decisional question (決定)	
8	教え合う授業は面白いですか	自国の都合のよいような政策ばかりをしていると、地球が終わってしまう	いろいろな国について学んで考える	
3つの問いを選び、OQはCQに、CQはOQに転換(本時のキー課題)		5. 1年間の皆さんの地理の授業の自己採点とその理由	6. 次のステージへ向けて考える。新年度に向けて(受験ワード禁止)	
1	2	3		
はい		はい		
転換した問いの答えを記入(本時では後日提出)		200点 ペアワークを頑張ったし、いっぱい調べたから	7. 何か一言！！	
		8. 今年度の日本の地理では、日本の地理が勉強できると聞いたので、もっと身近に地理の知識を活用できるように精進したい。	今年の授業、楽しかったです！	

「4. 1年間のリフレクション」では、授業で学んだことや授業形態に関する内容のほかに、カードゲーム「2030SDGs」(一般社団法人イマココラボ)を行った際に考えたことを挙げる生徒が目立った。同ゲームを授業で行ったのは、生徒に地理と社会の接点を考えさせるとともに、自分が社会・世界とかがわっていることを意識してほしいという意図からだ。同ゲームを行って学んだことは、「経済と環境の両立の難しさが分かった」「発展途上国も先進国も、バランスを考えないと世界全体の発展にならない」などと、その学びを生かしたいことは、「いろいろな視点で社会を見ていきたい」などと書かれており、三浦先生のねらい通りに、生徒は社会に目を向けていることが分かった。なお、リフレクションシートは、Googleのスプレッドシートを利用し、ペアで1枚のシートに書き込む。そのため、「4. 1年間のリフレクション」は2人分ある。

※三浦先生提供資料を基に編集部で作成。



SDGsの達成に向けた取り組みや研究の視点で、大学の学びを紹介する本コーナー。今号では、産業の基盤づくりを目指す目標9と、不平等の是正を目指す目標10に関する大学の学びを取り上げる。まずは、それぞれの目標について、世界と日本の状況を解説した後、目標9は高知工科大学、目標10は東洋大学の学びを紹介する。



## 解説



**目標9**  
強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

## 解説



**目標10**  
各国内及び各国間の不平等を是正する

### 世界の状況

#### 生活や産業の基盤となるインフラ未整備の地域が残る

社会の持続的な発展には、電気や水道、交通、インターネットなどのインフラの整備が欠かせない。インフラが整うと産業は活性化し、技術革新が促進され、さらなる社会の発展につながるからだ。

途上国の一部では、エネルギーや水などの安定供給が依然として大きな課題であり、世界においてイン

ターネットを利用できる人の割合は5人に1人未満である（\*1）。

特に、後発開発途上国では産業化が遅れており、製造業における1人あたりの付加価値（2018年）

は、欧米が4938米ドルに対し、後発開発途上国は114米ドルに過ぎない（\*1）。そのため、目標9では、途上国に対する金融・テクノ

ロジーの支援を強化したり、各国が持続可能な産業の確立に向けてイノベーションを促進させたりすることが、ターゲットに掲げられている。

### 世界の状況

#### 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、さらに広がる格差

目標10では、所得格差の縮小に加え、年齢や性別、障害、人種などにかかわらず、適切な法律や政策、行動の促進などを通じて、機会均等を確保し、成果の不平等を是正することを目指している。

社会における所得の不平等さを測る指標であるジニ係数（\*2）を見ると、2010〜17年の間、国

連が調査してきた84か国のうち、38

か国でジニ係数の値は低下しているが、25か国では上昇しており（\*1）、

所得の不平等は依然として大きな課題だ。国家間の不平等を縮小するため、政府開発援助（ODA）や直接海外投資等の促進も目標10に含まれているが、開発途上国への援助額は十分ではない。

加えて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、弱い立場の人の雇用や教育などに支障が出ている。経済活動が停滞し、国際的な資金の流

\* プロフィールは2021年3月時点のものです。 \* 1 国際連合 持続可能な開発目標（SDGs）報告2019。 \* 2 所得などの分布の均等度合を示す指標。係数が0に近づくほど所得格差が小さく、1に近づくほど所得格差が拡大していることを示す。 \* 3 平成29年版 厚生労働白書

日本の状況 解説者



高知工科大学  
システム工学群  
教授  
王碩玉  
おう・せきぎょく

専門分野は、ロボット工学、制御工学。山形大学工学部助教授、高知工科大学工学部助教授などを経て、2002年から現職。18年より、同大学総合研究所・アドバンストロボティクス研究センター長を兼任。

日本の状況  
ロボット研究などを強化し、  
技術革新の牽引を

日本では、生活や産業の基盤となるインフラはほぼ整備されている。目標9は、日本が達成していると評価される数少ない目標の一つである。

目標9に「強靱（レジリエント）なインフラ」と明記されているのは、自然災害などが起きた後、インフラをすぐに元の状態に回復させることが重要だからだ。コロナ禍では人や物の行き来がストップし、製造業や交通業、運輸業などが危機に瀕している。いかに国際協力を強めて、正常なインフラを維持し、支えていくかが、今まさに問われている。

中でも、自然災害が頻発する日本では、地震や豪雨などへの対策を課題として積極的な取り組みが行われている。例えば、高度経済成長期に整備された道路や橋などは、老朽化が進んでおり、対策を講ずることが急務となっている。現在、AI技術を用いたインフラの維持や管理などの研究が精力的に進められている。目標9の達成に向けて、日本には、各分野のイノベーションを牽引する役割が期待されている。高知工科大学システム工学群の王碩玉教授は次のように述べる。

「特にロボット技術は、様々な産業の自動化や効率化、省力化に貢献する可能性を秘めています。現在、ロボット開発の研究は、日本が世界をリードしており、研究費の増額や研究環境の整備なども進められているため、さらなる国際貢献が期待される分野だと思います」

P.52～53で、目標9の達成に向けた「高知工科大学」の学びを紹介しています。

日本の状況 解説者



東洋大学  
社会学部  
社会学科  
教授  
加山弾  
かやま・だん

専門分野は、社会学科（地域福祉論、コミュニティワーク論）。関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学。博士（人間福祉）。関西学院大学助手を経て、2006年から現職。

日本の状況  
地域共生社会の実現を目指し、  
分野横断的な支援の充実を

それが縮小してしまう恐れがあり、先進国と開発途上国との格差が一層広がるのが危惧されている。

日本のジニ係数の値は、アメリカよりは小さいが、北欧やドイツよりも大きく、経済格差は小さくないと言える（\*3）。

ただ、社会福祉の観点で見ると、障害者差別解消法、生活困窮者自立支援法などの法整備により、格差是正が進んでいる。特に、地域共生社会の実現を目指し、社会福祉法が改正（\*4）されたことが転換点になったと、東洋大学社会学部の加山弾教授は指摘する。

「これまでの社会福祉制度は、介護や障害、子育て、生活困窮など分野ごとに支援を行っていました。しかし、法改正によって、『8050問題』（\*5）など、分野横断的な問題に対応できる体制を、市町村が柔軟に整備できるようにしました」

加山教授はそうした法整備に加え、「コミュニティソーシャルワーカー（\*6）などの専門職を地域に配置し、例えば、商店街の空き店舗を活用した地域の居場所づくりなど、地域に潜在する社会資源をつなぎ合わせ、包括的な支援のあり方を考える必要がある」と語る。

また、日本で暮らす外国人への支援も重要だと、加山教授は説明する。

「入国した外国人に対する管理政策はあっても、医療や福祉、労働教育などの公的支援が不十分であり、早急な改善が求められます」

P.54～55で、目標10の達成に向けた「東洋大学」の学びを紹介しています。

\*4 2020年「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」が成立。 \*5 80代の親が、引きこもりなどで収入のない50代の子とも同居して生活を支えているなどの社会的孤立の問題。 \*6 分野を超えた支援が求められる問題に対して、必要な分野を結びつけて支援を行う専門職。



## 大学の学び

# 深い専門性や問題解決能力を身につけ、 産業に役立つロボット開発に挑む

## 高知工科大学 システム工学群 知能機械工学専攻 知能ロボティクス研究室

### 低学年次は5分野にまたがる 工学の幅広い知識を習得

高知工科大学システム工学群は、「ものづくり」の専門技術を備え、社会の基盤構築に資する技術者を育成する学群だ。「知能機械工学」「航

### 私たちが紹介します



システム工学群  
知能機械工学専攻4年  
後藤遼太  
こと・りょうた

兵庫県立東播磨高等学校卒業。同大学大学院工学研究科に進学予定。



高知工科大学大学院  
工学研究科基盤工学専攻  
知能機械工学コース  
修士課程2年  
佐藤春陽  
さと・はるひ

香川県立志度高等学校卒業。高知工科大学システム工学群卒業。

空宇宙工学」「エネルギー工学」「電子・光工学」「建築・都市デザイン」の5専攻を設置。1、2年次は5分野の土台となる基礎を広く学び、関心のある専門分野を見定めていく。

カリキュラムの大きな特色は、学びの自由度を高めるために必修科目を設けず、全科目選択制としている点だ。同大学システム工学群知能機械工学専攻4年の後藤遼太さんは次のように語る。

「好きな数学を学びながら、幅広い工学分野の中から自分に合う専門分野を見つけたいと考えて本学を志望しました。履修科目は、自分の関心と、指導担当（\*）の教授の助言を踏まえて組み立てました」

後藤さんは、1年次は数学系の科目を多く履修し、基礎から応用まで幅広く学んだ。2年次にロボット工

学が専門の王碩玉教授から、ロボット技術には統計学や確率などの数学分野の知識を生かせると聞いて興味を持ち、3年次からは知能機械工学専攻に進んだ。

同大学大学院工学研究科基盤工学専攻知能機械工学コース修士課程2年の佐藤春陽さんは、高校の部活動でロボット製作を経験し、本格的に大学で研究したいと考え、入学した。

「要介護の親族がいた私は、介護の大変さを身近に感じていました。そうした時に、本学のウェブサイト上で、介護ロボットを研究する王教授の研究室を知り、私もここで研究したいと思いました」

同学群では、専門性の幅を広げるため、主専攻のほかに副専攻も選択できる。佐藤さんは、ロボットの基盤製作に不可欠な知識を学ぶために

エネルギー工学専攻を主専攻とし、副専攻を知能機械工学専攻とした。

### ロボットを使う現場を再現して 実験を繰り返し実用化を目指す

3年次から研究室に所属し、研究を始める。2人が所属する王教授の知能ロボティクス研究室は、ロボット工学や制御工学、AIなどを生かして、企業と連携して先端的なロボットの開発に取り組む、「目標9 産業と技術革新の基盤をつくる」の達成への貢献を目指す。

研究室では、企業との共同研究の一例として、前田建設工業株式会社・総合センターと有限会社 サット・システムズと共同で建築現場で資材を自動搬送するロボットの開発に取り組んでいる。

### この学びに関する 他の SDGsの目標



※ プロフィールは 2021 年 3 月時点のものです。  
\* 1 年次から各学生に指導担当教員が付き、科目履修の指導などを行う。

資材搬送は重労働であるため、ロボットがそれを代替することができれば、労働者の負担は大きく軽減され、建築業界における人手不足の課題にも貢献できる（目標9）。

後藤さんは、自動搬送ロボットへの適用を目指した基礎研究に取り組む。現在は、建築現場でロボットが自在に走行できるように、人などの動く障害物を安全に回避できるようにするための、プログラミングの工夫と動作実験を行っている（写真1）。

佐藤さんは、寝たきりの要介護者などの介護を行うヒト型生活支援ロボットの開発に取り組んでいる。大学近隣にアパートを借りて、要介護者の生活状況を再現し、実際にロボットを用いた実験を行っている（写真2）。寝たきりの要介護者は、



写真1 後藤さんは、建築現場でも走行できる機能の実用化を目指し、市販ロボットを用いて、障害物回避のための経路計画と軌道計画に関する基礎研究を行っている。



写真2 要介護者の住環境を再現し、学生が要介護者の役となって、実験を重ねている。要介護者と介護者の双方の負担を軽減することを目的に開発を進めている。

言語やジェスチャーによる意思伝達が難しい場合もあるため、可能な限り、単純な指示で要介護者のサポートをするロボットの開発を目指していると言っています。

「例えば、要介護者が『水が飲みたい』『お腹が空いた』などを意味するカードを出したら、ロボットがそれをカメラで読み取り、規定の動作を行う機能などの研究を進めています。そうしたロボットの実用化は、すべての人に健康と福祉をもたらすこと（目標3）にも結びつくと考えています」

同研究室には、各自の研究成果を国内・国際学会で発表する機会も用意されており、学生にとって大きな目標になっているという。

## 学部生の専門性をより高める 修士課程の科目も履修可能

同大学では、より専門性の高い人材育成のため、大学と大学院修士課程の教育・研究をスムーズにつなぐ「6年一貫教育型」のカリキュラムを整備している。その一環として、大学在学中に履修した修士課程の科目を修了要件として認定する制度がある。

「4年次に修士課程の科目を履修し、その学びを今の研究に生かすことができました。卒業後は、ロボットの実用化に向けてさらに研究を深めたいと考え、大学院への進学を決めました」（後藤さん）

佐藤さんは、修士課程を修了後、トイレタリーメーカーの技術者として、工場設備の設計やメンテナンスなどに携わる予定だ。

「ロボット開発という明確な目標を持って、ロボット工学とエネルギー工学を専門的に学び、実用的な技術開発を行うという自分の強みを磨くことができました。本学で学んだことを卒業後も生かしていきたいと思っています」（佐藤さん）

## 学びとSDGs

### 社会問題を多面的に捉え ものづくりで解決する力を育む



工学の使命は、ものづくりを通して人々を幸せにすることであり、SDGsとも合致します。

それを実現する技術者になるには、専門知識を学ぶだけでなく、社会問題の本質を捉え、解決への道筋をつくり上げていく問題発見・解決能力を身につけることが重要です。また、現代社会の問題は、複数の領域にまたがりまです。そこで、本学群では、全科目を選択制とし、主専攻に加え、副専攻を設けたりして、柔軟に学びをデザインできるようにし、多面的に学べるようにしています。

そうしたカリキュラムを編成しているのは、学生の主体性を育みたいと考えているからです。本研究室でも、学生自身が社会問題の解決に結びつく最先端の研究テーマを設定して研究を進め、問題解決能力を磨いています。ロボット工学に興味がある高校生は、知識を獲得することに加え、知識を活用して問題発見と問題解決を体験してほしいと思います。

大学の学び

一人ひとりの権利を守るために、  
社会福祉分野での実践力を身につける  
東洋大学 社会学部 社会福祉学科  
加山ゼミ

低学年から実践を意識した  
少人数の演習で学び合う

東洋大学社会学部社会福祉学科は、福祉の現場をリードする人材の育成を目指している。同学科4年の藤井明理沙さんは、社会福祉士の資格

私たちが紹介します



社会学部  
社会福祉学科4年  
藤井明理沙  
ふじい・ありさ

埼玉県立伊奈学園総合高校卒業。卒業後は、地方公務員として福祉関連業務に携わる予定。



東洋大学大学院  
社会福祉学研究科  
博士後期課程1年  
勝又健太  
かつまた・けんた

新潟県立長岡商業高校卒業。東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科卒業。社会福祉協議会に勤務。

格取得を目指し、同学科に入学した。「高校3年間、ラクビー部のマネージャーを務めました。選手をサポートするうちに、『他者の喜びは、自分の喜び』という気持ちが生え、将来は誰かを支える仕事がしたい」と思い、福祉の仕事を目指しました。同学科のカリキュラムの特徴は、1年次から少人数制の演習を設置していることだ。1年次は、文献調査やレポート作成など、大学の学びの基礎を学ぶ「社会福祉学基礎演習」を履修。ここでは、社会福祉学の基礎理論も身につける。

2年次は、社会福祉士に必要となる相談援助の基礎を身につける「ソーシャルワーク入門演習」を履修。学生は、相談者・支援者役に分かれ、相談援助のロールプレイを通じて、傾聴・受容などの手法を学ぶ。また、支援が実際にどのように行われているのか、分野・対象者別に、より具体的に学ぶ。藤井さんが履修した加山弾教授の「地域福祉論B」では、グループ内で分担して大学周辺の社会資源を調べ、地域に必要な支援を把握する地域調査を行った。「地域に入ると、多くの課題に気づけるため、フィールドワークで実践的に学べる加山ゼミに入りたいと考えました」

高学年では、ゼミや実習で福祉の現場を学ぶ

3年次からはゼミに所属し、各自の専門性を深めていく。加山ゼミでは、貧困や孤立、排除などの生きづらさに対する福祉的支援のあり方を実践的に学び、「目標10 人や国の不平等をなくそう」の達成に貢献する活動に取り組んでいる。社会福祉協議会（\*1）以下、社協）での支援など、4分野（\*2）に分かれて行うフィールドワークでは、藤井さんは、社協が運営支援する子ども食堂で、小・中学生の学習支援などを行った（目標1・3）。「子ども食堂には、塾に行く機会のない子や、不登校の子、家庭で十分な食事を得られない子などがいます。そうした子から、将来について相談を受けることがあり、自宅や学校とは別の居場所となる『サードプレイス』をつくる必要性を学びました。そこで私たちは、多世代の地域の方が交流する場（目標11）をつくりたいと考え、イベントを実施しました」（写真）

この学びに関する他のSDGsの目標

※プロフィールは2021年3月時点のものです。  
\*1 地域福祉の推進を図ることを目的とする公共性の高い民間の福祉団体。 \*2 ①社協が設置・運営する地域のサロン活動、②子ども食堂での学習支援、③若年性認知症の本人・家族の交流会での支援、④社会福祉法人による農福連携（障害者が農業生産活動に携わる取り組み）での支援。

格取得を目指し、夏季休業中の1か月間、福祉関連施設で実習を行う。ゼミ活動における子ども食堂での地域支援に関心を持った藤井さんは、社協で行われるサロン活動（\*3）で実習に参加した。

「実習を通じてボランティア活動をする人と触れ合うことで、サロン活動は、支援者にとっても生きがいになっているのだと感じました。その経験から、将来は地域での支え合いに携わりたいと思いました」

2020年度は、コロナ禍の影響で子ども食堂に訪問できなかった藤井さんだが、子どもとのつながりを継続したいと考え作成した「東洋大だより」を子どもに配り、読んでもらった。大学卒業後は、公務員の福祉職として勤務予定だ。



写真 加山教授からアドバイスを受けて、藤井さんたちは子ども食堂でベトナム料理を味わえるイベントを企画。地域の多世代の人が集い、大盛況だった。

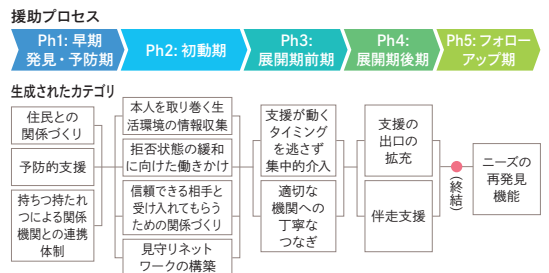
## 地域で孤立する人の権利擁護について学ぶ

同大学大学院社会学部社会学研究科博士後期課程1年の社会人学生・勝又健太さんは、高校3年生の時に新潟県中越地震を経験。復興に向けて助け合う地域の取り組みを目の当たりにし、社会学部を志した。東北福祉大学卒業後、地元に戻り、地域包括支援センターなどに勤務。そこで感じたのは、地域で孤立する人の早期発見と介入（\*4）の重要性だ。

日本では、生活保護などの社会福祉制度を利用する場合、制度を利用したい人が申請手続きを完了しなければ、支援を受けられない。中高年の引きこもり問題やゴミ屋敷問題などの当事者は支援を拒むことが少なくなく、その場合は、原則として制度の利用には至らない。

そこで、勝又さんは同大学大学院に入り、加山ゼミで、地域から孤立した人の権利擁護について学び（目標3）、望ましい介入のあり方を研究している。修士論文では、『自発的に支援を求めない住民』のアウトリーチ（\*5）に関する研究（図）

## 孤立した住民へのアウトリーチ（援助プロセス）を提案



地域で孤立した人を早期発見し、どのように支援するか、地域連携も含め、研究中。  
※資料を基に編集部で作成。

をテーマとした。現在は、地域での早期発見の仕組みを構築中だ。「専門職の支援に加えて、地域で緩やかな見守りを行うなど、重層的な支援のネットワークを構築することが重要だと考えています」

同研究科の加山ゼミには、勝又さんのように、福祉の現場で働きながら学ぶ社会人のほか、留学生も多い。「ゼミの仲間と議論をすると、新しい視点が得られるので、とても刺激を受けます。今後も、当事者の声なき声に耳を傾け、それを福祉の現場へ還元し、社会に発信していく研究者を目指したいです」（勝又さん）

## 学びとSDGs

多様な価値観を受け入れ、現場で活躍する人材に



社会学部  
社会学部  
社会学部  
教授  
加山 弾  
かやま たん

本学科では、社会学部の現場で活躍できるような実践力を鍛えるカリキュラムを組んでいます。実践力のうち特に大切なのが、多様な価値観を受容し、様々な他者とコミュニケーションを取る力です。なぜなら、福祉を必要とする人は、乳幼児から高齢者まで幅広く、それぞれに事情を抱えており、接する際には個別の配慮が必要で、それは想像以上に大変だからです。

また、福祉の現場では、主体的に課題を発見したり、企画提案したりする力も必要のため、学生主体で課題を見いだし、企画・運営をするよう、助言しています。

卒業生の就職先は、福祉関連の法人や企業などと一般企業の割合が半々ですが、今後は、より多くの学生に福祉職に目を向けてほしいと考えています。福祉分野に興味がある高校生は、ボランティアに参加したり、書籍やインターネットで情報収集したりするなど、まずは身近な社会学部に目を向けてみてください。

\* 3 地域のボランティアなどが主体となって、地域で孤立しがちな高齢者や障害者、子育て中の親子らを集め、仲間づくりや福祉的な活動を自主的に行う場。 \* 4 援助者が当事者に行う問題解決のための援助の総称。 \* 5 支援が必要な状態であるにもかかわらず、支援が届いていない人に対して、行政などが積極的に働きかけて情報・支援を届けるプロセス。

トレンド・ワード

# DX (デジタルトランスフォーメーション)

生徒の学びや進路選択、そしてその後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として、「暮らす」「働く」「学ぶ」の観点から解説する本コーナー。今回は「DX」を取り上げる。2021年9月にデジタル庁の創設を予定するなど、政府はデジタル政策に本腰を入れ始めた。デジタル技術の進化は、これまでも社会や日常生活に大きな影響を与えてきた。それらとDXは何が違うのか。DXの概念や社会への影響、そしてDX時代に求められる資質・能力などについて、企業や行政機関のデジタル戦略立案等を推進する株式会社NTTデータ経営研究所の三谷慶一郎氏に話を聞いた。

サマリー

**デジタル技術による新たな価値の創出が、社会や文化、人々の意識をも変えていく**

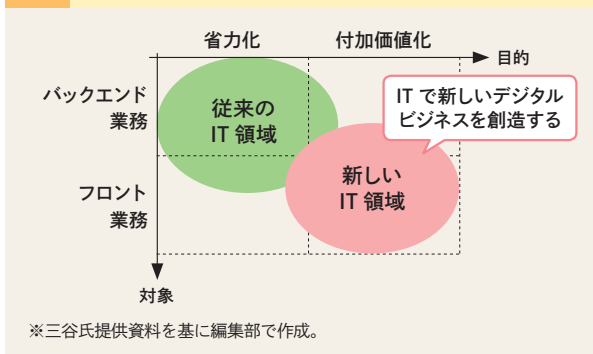
**デジタル技術を新たな価値創出のために活用**

「DX」は、2004年にスウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が、「ITの浸透によって、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること」として提唱した概念だ。その後、デジタル技術が飛躍的に

進化した現在では、DXをより具体的に捉えられるようになった。18年に経済産業省がまとめた「DX推進ガイドライン」では、DXを、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を

変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義している。DXの現状について、株式会社NTTデータ経営研究所の三谷慶一郎氏は、次のように説明する。「コンピュータシステムは元々、企業の業務（バックエンド業務）の省力化のために使われていました。さらに、近年のデジタル技術の急激な進化によって、高性能の機器や高速・

図1 企業でのデジタル技術活用の変化



解説者

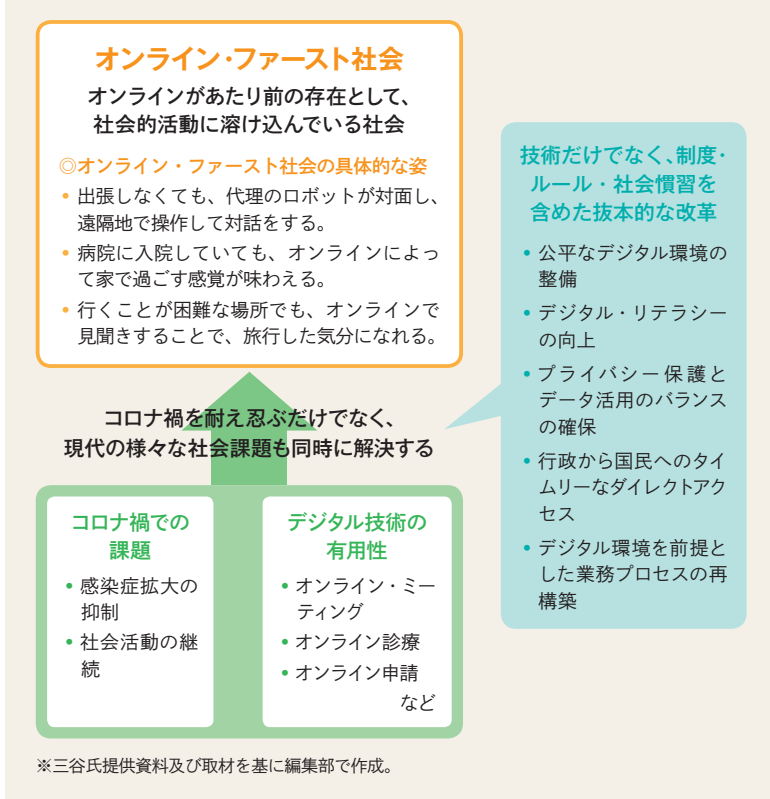


株式会社NTTデータ経営研究所 エグゼクティブ・オフィサー  
 武蔵野大学 国際総合研究所 客員教授

**三谷慶一郎**

みちに、けいいちろう  
 企業や行政機関のデジタル戦略立案等を推進。『DX経営戦略』（監訳、NTT出版）ほか、共著書多数。

図2 オンライン・ファースト社会とは？



大容量のネットワークが極めて低価格で手に入るようになってきました。一方、消費者のニーズは多様化し、『モノ消費』から、新しい経験や体験といった『コト消費』にシフトし始めています。使いやすくなってきたデジタル技術を活用し、新しいニーズに応えられるようなサービスを開発し出すこと、つまり顧客接点である

『フロント業務』においてビジネスを変革し、付加価値を向上させることが求められています。その動きが、DXにつながっています(図1)。

**人々の意識の転換こそがDX推進の鍵**

世界の企業がDXに取り組んでいる中、残念ながら日本は出遅れ感がある。

否めない。スイスの国際経営開発研究所が20年に発表した「世界デジタル競争力ランキング」(※1)で、日本は63か国・地域中27位だった。経済産業省が設定したDX推進指標による企業の自己診断では、「DXに未着手、または一部の部門で実施」と回答した企業が約95%に上った(※2)。「効率化を最大の経営戦略としていた日本の企業では、デジタル技術も、品質の向上など、既存の業務改善の活用にとどまっています。それでは、消費者が手にするモノやサービスに大きな変革は起こりません。本来のDXの方向性である、新しい価値の創出に活用するといった意識を持たなければなりません」

**リアルとオンラインが同等のオンライン・ファースト社会に**

その状況に、コロナ禍が変化をもたらした。非対面・非接触でのビジネスを展開せざるを得なくなった結果、企業ではテレワーク化が進み、デジタル技術を活用した商品・サービスの開発が進んでいる。

「これまで非常識とされてきたオンラインでの商談も、コロナ禍によってすっかり常識となりました」

「オンラインでの接触は、リアルな接触と同等の意味を持つ」ということに、社会的な同意が得られれば、オンラインは「新しいリアル」として進化することになる。

『自身の人間の活動としてのリアル』と『オンラインという新しいリアル』の2つの特性を十分に理解した上で、目的に応じて自在に使いこなすことのできる、『オンライン・ファースト社会』(図2)が新たな日常になると考えられます」

オンライン経由で自分の身体感覚を拡張できれば、例えば、入院患者が自宅に帰る経験をオンラインででき、それが実際の帰宅と同等の感覚を持って受け入れられるようになる。

「人間の感覚を拡張した部分も含めてリアルな社会だと見なされるためには、デジタル技術の実装だけでなく、制度やルール、社会慣習も含めた社会全体の変容が必要でしょう」

●次ページからは、「働く」「暮らす」「学ぶ」の3つの切り口で、DXによる、社会や生活の変化を具体的に見ていく。

\*1 デジタル利活用能力を、①知識(新技術を発見・理解・開発するノウハウ)、②技術(デジタル技術の進展)、③将来への準備度合い(DXに対する準備)の3観点から評価。上位5位は、アメリカ、シンガポール、デンマーク、スウェーデン、香港。 \*2 経済産業省デジタルトランスフォーメーションの加速に向けた研究会「DXレポート2(中間とりまとめ)」(2020)。

# 働く

## オンライン・ファーストで多様な働き方が広がる

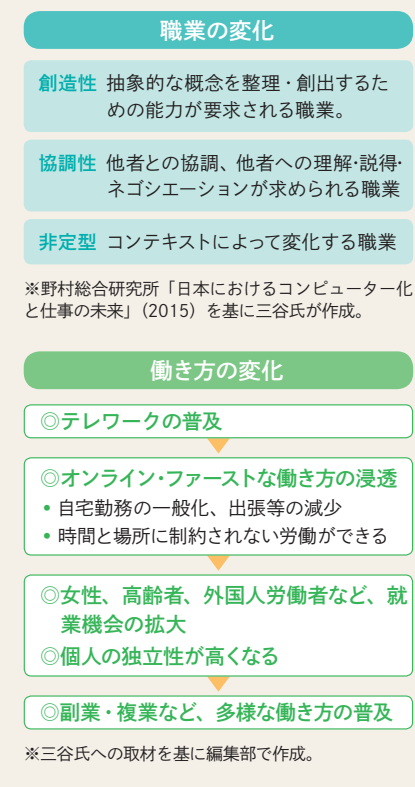
これまで、時代とともに消える職業、新たに生まれる職業はあったが、AIやIoT（\*3）の進展により、今後十数年間で職業のあり方は大きく変化すると言われている。

「一時、『AIが人間の職業を奪う』として話題になりましたが、少なくとも単純作業についてはAIに代替される可能性が高いでしょう。一方で、創造性や協調性、非定型な仕事（図3）は、人間が行う領域としてますます重要になります。それは人

材の要件にもあてはまることで、同じ職種でも、定型的な作業しかできない人材は淘汰され、問題解決や価値創造ができる人材が求められるようになります」

働き方も、コロナ禍におけるテレワークの普及を受けて変わり始めている。同じ場所に人々が集まって仕事をしなくても、滞りなく実務を進められることが実証されたことで、場所や時間に制約されない働き方が、コロナ禍の終息後も進むと考え

図3 DX時代の働き方



られる。

「テレワークが多くの企業に普及し、子育て中や介護中の人、障害を抱える人、高齢者などが働きやすい環境になれば、就業機会の拡大につながるでしょう」

自宅等での勤務が一般化し、出張等も限定的になるなど、オンライン・ファーストな働き方が広がれば、労働の価値観の変化も予測される。

「例えば、昨今の働き方改革で推

# 暮らす

## IoTによって進む「コト消費」と個別最適化

デジタル技術を活用したサービスは、コロナ禍において、ますます暮らしに溶け込んできている。ネットショッピングに加えて、オンラインコンサートやスポーツのオンラインレッスンなど、これまでリアルで行うことがあたり前だった体験や経験もオンラインで提供されるようになった。

「自動車や自転車のレンタル、服や書籍などを個人間で売買するフ

奨されている副業・複業は、DXでこそ実現しやすくなります。1つの仕事が終わったら、次は違う場所とつながって別の仕事をすぐに始められる——時間と空間の制約を超えるというデジタル技術の本質的な特長が発揮され、リアルとバーチャルの価値を等しく捉える考え方が社会に浸透していけば、仕事も枠組みごと大きく変化することが予測されます」

リーマーケットなど、『モノ』を個人で所有せず、他者と共有するシェアサービスは、デジタル技術によって手軽に利用できるようになったからこそ普及したと言えます」

個人に特化したサービスも、拡大が予測される。既に、ネットショッピングでの購買傾向やウェブサイトの閲覧履歴などを分析し、顧客の好みに合わせた商品の情報を提供する「レコメンド」が行われている。今後、

\*3 Internet of Thingsの略。スマートフォンやパソコンだけでなく、様々な物に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり、相互に通信したりして、自動制御や情報収集などを行うこと。

# 学ぶ

## 求められるデジタルリテラシーと新しい教養

IoTが進み、より多様な情報を収集できるようなれば、健康管理や医療など、提供される情報やサービスの幅は広がるだろう。

家電などをIoTで制御し、エネルギーを最適化するスマートハウスや、街全体をIoT化し、電力や交通機関などの効率的な運営などを目指すスマートシティ（\*4）のように、デジタル技術の活用規模の拡大

により、個別最適化されたサービスは、移動や防災などにまで及ぶと考えられる。

「データが大量に蓄積されれば、サービスの幅が広がり、質が向上することは確かですが、個人情報の保護の問題があります。公共の福祉、個人情報保護、企業の利益という三者のバランスをどのように図るかが、重要な論点となります」

DXが「学ぶ」ことに及ぼす影響は、2つの側面が考えられる。

1つは、「学ぶ内容」だ。前述のように、仕事や生活の様々な場面でデジタル技術が活用されているが、それらを活用するためにはデジタルリテラシーが必須であり、新学習指導要領で「情報I」が共通必修教科目となったのも、そうした資質・能力を育成する目的がある。そして、大学では、学部を問わず、「数理・デー

タサイエンス・AI」の教育が重点化される。

加えて、自ら問題を見だし、その解決に向けて前向きに粘り強く試行錯誤する姿勢は、デジタル時代の新たな教養（図4）になると、三谷氏は指摘する。

「デジタル時代には、単に技術的な知識を持つだけでなく、ゼロから何かを生み出す力と、壁にぶつかっても、壁を乗り越えるために必要な

図4 デジタル時代に求められる教養

**問題発見** 問いを立てる力。データの力で解くべき問いを見いだす。

**試行錯誤** 答えのない問題に立ち向かう力。データの力でよりよい解決策に近づく。

**しなやかマインドセット（\*5）** 自分の才能や能力は経験や努力によって向上させることができるという考え。

※三谷氏への取材を基に編集部で作成。

一気に広まった。今後は、知識の習得を目的とした学びは、オンライン教育での提供が主流となり、対面で行うのは実践的な学びとなることが予想されるなど、学習方法のすみ分けが進みそうだ。

「ただ、オンラインでもグループワークはできませんし、場所に制約されない分、国内の遠方の人や海外の人ともつながり、学び合えるといった利点もあります。状況によって学ぶ方法を使い分けることが、一般的になるでしょう」

また、これからは、社会の変化に応じて知識・技能を再構築する「リスキル」が必要とされるが、デジタル技術の活用によって時間や場所の制約を受けずに学べる環境が整備され、年齢や居住地、職業などにかかわらず、学びたい時に学べるようになり、リスキルを後押しすることになる。

「学びにおけるDXも、学習方法の選択肢が増える、より効率的に学習できる、といったことにとどまるものではなく、学校の意義や学びの本質に迫るような変革をもたらすのではないだろうか」

ことを自ら考え、それを学ぶ力を持つ得た人材が活躍するでしょう。そうした点からも、初等中等教育で実践され始めているSTEAM教育や探究学習など、答えが1つではない問題の解決に教科・科目を横断して取り組む学びは、大変重要だと考えます」

もう1つの側面は、「学ぶ方法」だ。以前からeラーニングなど、デジタル教材を使った教育は提供されていたが、コロナ禍によって、インターネットを活用したオンライン教育が

\*4 『VIEW21』高校版2020年8月号の本コーナーで取り上げている(P.52-55参照)。 \*5 アメリカのスタンフォード大学で発達心理学を教えるキャロルS・ドゥエックが提唱するGrowth-Mindsetのこと。



# 言語技術教育

日本語の4技能を体系的に学ぶプログラムで、  
思考と論理の基礎を身につける

東京都・私立芝浦工業大学附属中学高校



写真上/中学2年次の最後には、4技能を総合的に発揮する活動として、ディベートを実施。  
写真下/短時間でもチームで相談して発言をまとめられるようになった生徒たちに、2年間の学習の成果が感じられる。

## どんな学び？

### 1 授業の内容は？

日本語の「話す・聞く・書く・読む」を鍛えるため、話型を学ぶゲームや話を聞きながら要点を書く活動などを行います。

### 2 育成を目指す資質・能力は？

明確な根拠に基づいて考え、どんな相手であっても、自分が伝えたいことを相手が分かりやすいように話したり、書いたりすることができる力です。

### 3 なぜ、この学びが必要？

本校の生徒の多くは、分かりやすく言葉で説明することが得意ではありません。しかし、社会に出れば、仕事でも生活でも他者との協働が必須です。対話を育む必要があると考えました。

## 話型の習得から始めて、 説得力ある伝え方を身につける

本校では、中学1・2年次に「言語技術」という、2コマ連続の授業を隔週で行っています。理工系教育が充実している本校には、数学や理科は得意であるけれども、対話や作文に苦手意識を持つ生徒が多い傾向があります。そこで、2009年度に、つくば言語技術教育研究所の指導に基づいて、日本語の4技能を体系的に学ぶ授業を始めました。カリキュラムの軸は、論理力・伝達力・分析力を育む活動です(図)。

### 図 「言語技術」で行う主な活動

#### 問答ゲーム

論理的な説明の仕方の1つである、「結論を言うから理由を説明する」という話型を身につけるゲームで、言語技術の土台となる力を養う。性質や具体例など、論拠を示す方法を加え、内容やレベルを上げながら活動を繰り返す。

#### 再話

読み上げられた文を聞きながらメモを取り、聞き終わった後、メモを基に話の内容を書き起こす。要点を捉える力、論理的な文章構成力を養う。

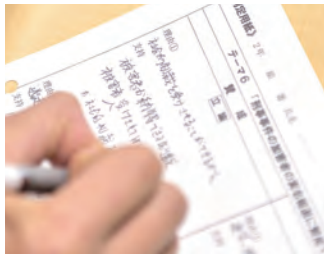
#### 情報伝達

多くの情報を相手に分かりやすく伝えるための方法を検討する活動。情報を分類・整理する力、全体から部分へと分かりやすく説明する方法を学ぶ。

#### 絵の分析

いつ、どこで、何をしているかなど、絵に描かれた内容を分析して表現する。根拠が明確であれば答えは無数にあり、観察力や分析力を磨く。

※学校資料を基に編集部で作成。



ディベートでは、判断の材料とするため、各チームの主張を聞きながら、その要点を書き留める。「再話」などで培ってきた力を発揮する場面となる。

を言うことから理由を説明するという話型を学びます。「私はAが好きです。なぜなら〜だからです」と型があることで、生徒は考えやすく、発言もしやすくなります。課題のレベルを徐々に上げながら、論拠を示す方法を加えて自分の考えを論理的に表現できるようにしていきます。「言語技術」では、言葉や表現を扱いますが、学習内容は国語というより実技教科に近く、練習の積み重ねが重要です。そこで、教師の説明は必要最小限にし、生徒が活動する時間を多く確保しています。中学1年次は、定型を用いて説得力ある発言ができるようになることが目標です。中学

2年次には、生徒が自分で型を選んで発言する活動を増やし、集大成としてディベートを行います(写真)。

## 他者の発言のよい点・改善点も 明確に指摘する生徒たち

授業では、明確な根拠を基にした思考・判断を徹底させ、「何となく」は認めません。自分の発言が聞き手に伝わることをあたり前と思わず、聞き手に甘えるような表現をしない意識を持つてほしいからです。それが浸透すると、聞き手になった時、他者の発言の優れている点や、説得力を増すために改善すべき表現などを指摘できるようになります。例えば、19年度中学3年生が卒業に際して行った、自分の将来について文章で表現し、発表する活動では、社会的な課題を批判的思考で見だし、それを将来自分がどのように解決するかを論理的に考えて説明できており、本授業の成果の表れを感じました。「言語技術」で培った論理力・伝達力・分析力は、問題解決のプロセスで求められる力でもあります。21年度、中学1年次から探究学習を実施する本校にとって、ますます重要な授業になると考えています。



言語技術科主任  
**白鳥 新**  
しろうり・あらた

教職歴10年。同校に赴任して4年目。国語科。

#### 学校概要

- ◎育成を目指す人物像は、「科学技術を通して世界に貢献できる技術者・研究者」。STEM教育や大学との連携教育、グローバル教育などを軸に、理工系教育に力を入れる。以前は男子校だったが、高校は2017年度に、中学校は21年度に共学化。
- ◎設立 1922(大正11)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 中学校1学年約160人/高校1学年約200人
- ◎2020年度入試合格実績(現浪計)  
国公立大は、宇都宮大、埼玉大、東京外国語大、東京農工大、横浜国立大などに18人が合格。私立大は、慶應義塾大、芝浦工業大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ202人が合格。

『VIEW n-express』では、  
同校の言語技術教育について  
さらに詳しく紹介!  
「ウェブで見学 学びのnext」  
もご覧ください

VIEW n-express

検索

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。



『VIEW next』高校版の創刊号である本号の表紙は、『VIEW21』高校版2020年4月号以来1年ぶりに、教師・生徒の写真が飾りました。撮影時の課題となったのが、ソーシャルディスタンスの確保です。そこで活躍したのが、学校にあったちょうど1メートルの長さの棒。構図やポーズを変える度に、カメラマンが発する「チェックお願いします!」の呼びかけに編集部員が走っていき、先生・生徒それぞれが距離を保っているか、その棒を使って確認をしながら撮影しました。その甲斐あってか(?)、物理的な距離は保ちつつも、先生と生徒の心の距離の近さが感じられる表紙に仕上がったのではないかと考えています。(朝比奈)



VIEWnext  
電子ブック 高校版は

電子ブックで閲覧可能です

VIEWnext 高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号～21年2月号は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。  
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

<https://berd.benesse.jp>

VIEWnext

高校版 2021年6月号

6月21日発行  
(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発行です

先生方からのご意見を  
紹介します

## Reader's VIEW

2021年2月号へのご意見

### 誌面の先生方と対話をしている気持ちに

2月号の特別企画で、『VIEW21』の軌跡と先生方の思いを載せた記事を読み、今あまりできていない対話を先生方としている気持ちになった。改めて、学校外においてもアンテナを張ることで、自身の見識を広めることがとても大切だと感じた。 埼玉県・私立東京農業大学第三高校 小堀健一

### 生徒総会での校則改正の議論の参考に

2月号の特集の宮崎県立宮崎大宮高校の記事は、本校の生徒総会が目標とする状態を示しており、参考になった。本校では、同校の携帯電話の議論と同様に、生徒総会で「置き勉」(教科書を自宅に持ち帰らないこと)禁止を解除する校則改正について議論中だ。生徒会長に本記事を早速渡し、参考にするよう伝えるのと同時に、2022年度の入学希望者向け学校説明会で、生徒会活動について説明しようと提案した。

大阪府立八尾高校 中村泰造

### 特別活動は扇の「要」

2月号の特集の座談会で長野県蘇南<sup>そなん</sup>高校の小川幸司校長が述べていた、特別活動での生徒の努力や成長について言語化することの有用性にとっても共感した。新学習指導要領の解説にある通り、特別活動は各教科・科目を束ねる扇の「要」であり、非常に重要だ。生徒への指導では、教師自身の専門分野だけではなく、そこで培った知識や力を生かす特別活動でも自分の能力を発揮したい。

北海道 匿名希望

### 安心して意見を述べられる雰囲気不可欠

ホームルーム活動の他校の取り組みを知る機会は少ないので、2月号の特集で紹介された事例は参考になった。主体的・対話的で深い学びを促す授業を行うためには、安心して意見を述べられる雰囲気をクラスに醸成することが不可欠。ホームルーム活動は、若手教師への指導も含めて、学校全体として取り組むべきだろう。

千葉県立銚子商業高校 田中三郎

### 若手教師が自由に語り合う場が大切

2月号の「若手教師・教育創造 MTG」にあった「自由に語り合える場」は、どの職場でも大切なことである。臨時休業によって対面授業ができない状況下で柔軟に対応したのは若手教師だった。オンライン授業を工夫・改善し、周りの教師に教えたり、アドバイスを求めたりと、中心となって活躍していた。柔軟さで勝る若手教師が自由に語り合える場は、学校経営に大いに役に立つ。

富山県 匿名希望

### 国や地域の独自性を際立たせるグローバル化

2月号の「これからの進路指導のための世の中トレンド解説」を読み、「グローバル化は、世界の同質化を推し進める半面、それぞれの国や地域の独自性を際立たせる一面もある」という解説に新たな気づきももらった。例えば、海外の留学生と日本人学生の間には、前向きな行動力やハングリー精神などで差があると感じている。普段、高校生に何を教育していくかを考えさせられた。

静岡県 匿名希望

# VIEWnext 編集部からのお知らせ

ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト内のコーナーの『VIEW21 express』が  
**VIEWn-express にリニューアル!**



毎月更新

変化が激しく、将来の予測が困難な社会において必要な教育とは、そしてそれを実現するための手立てとは——これからの時代、教育にかかわる多くの人々が考え続ける問いだと思います。その答えは1つではなく、それ自体変化していくものだからこそ、タイムリーな情報提供が必要であると考えました。本コーナーでは、最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを「express = 速達」でお伝えします。

アクセスはこちら!

<https://berd.benesse.jp/magazine/express/>

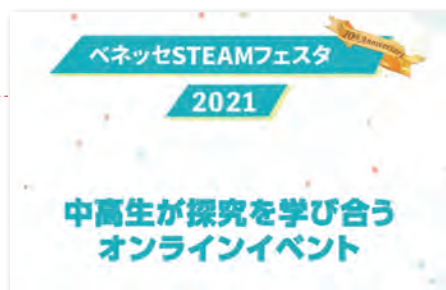
## 今後リリース予定のコンテンツ



### 「VIEWnext 創刊記念セミナー」レポート

2021年3月にオンラインで開催した「VIEWnext創刊記念セミナー」は、大変多くの方にご視聴をいただきました。将棋棋士の羽生善治九段や國學院大学の田村学教授の講演など、当日の内容をレポートします。

### 「ベネッセ STEAM フェスタ」レポート



### ウェブで見学 学びのnext

今号の「誌上で見学 学びのnext」で紹介した東京都・私立芝浦工業大学附属中学高校の「言語技術教育」について、授業内容や生徒の様子、教師の指導体制・工夫などをさらに詳しくお伝えします。



全国の中高生が取り組む探究・研究を発表し、学び合うオンラインイベントを、2021年3月に開催。1,600回を超える再生数となり、大きな注目を集めた中高生の発表内容や、意見交換の様子を報告します。

VIEWnextのLINEをご登録いただければ、  
VIEWn-expressやVIEWnextの電子ブックに、**ダイレクトにアクセス**できます!

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!

VIEWnextや教育に関する最新情報をタイムリーにお届けします。

友だち登録をすれば、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届きます。

\*友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの

「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



## 棚村好彦

先生

Tanamura Yoshihiko

山形県立山形東高校

次に踏み出す  
「やりたい」を  
支えたい生徒が、やりたいことにどんどん挑戦  
できるようにする——それが、私が

学年主任を務める2学年の基本方針です。本校は、2018年度に探究科を設置し、普通科も含め、全校で探究学習を推進しています。探究科の設置に際し、私は全国の探究学習の先進校を訪れ、その手法を学ぶ役割を担い、山東らしい探究学習の進め方を模索しました。その1つが、生徒の意欲を後押しする環境づくりです。高校は、大学での学びや社会を見据え、生徒が自分の軸を探る場所であり、その軸は多様な体験を通じてこそ見つかるも

のだと思います。教師が一步引くことで、生徒が時間にも心にも余裕を持ち、やりたいことに打ち込めるようにしています。

2年次の課題研究は、生徒がテーマを決めて、個人またはグループで取り組みます。20年度は、コロナ禍で思うように研究を進められない状況でしたが、だからこそ、「どう思うの?」「なぜ、そうしたの?」と問いかけることで、生徒が内省し、納得のいく研究ができるようになりました。途中報告も含め、3回行った研究発表会では、回を重ねるごとに、生徒は根拠を示して意見を述べることができるようになっていき、自分の考えを聞き手に伝えるように表現しようとする姿に、頼もしさを感じました。

年度末、2年生全員に書かせた志望理由書を読むと、文章は稚拙でも、生徒それぞれ「やりたい」という情熱が伝わってきました。生徒が自分の納得のいく道を選び、次の一歩を踏み出していく——卒業までのあと1年、生徒の「やりたい」を見守りつつ、支えていきます。



生徒より

山 東に入学してよかったと思うのは、自分の興味とことん追究できる風風があることです。模擬国連や化学グランプリなど、様々な活動への参加を通じて、自分の学びたいことが明確になってきています。課題研究は、コロナ禍の影響で着手が遅れ、思うように実験ができませんでしたが、先生方にも相談し、今できる工夫をして、納得のいく結果を出すことができました。どんな状況でも、環境のせいにならず、自分で責任を持ってやり遂げる大切さを学びました。

たむら・よしひこ 教職歴15年。同校に赴任して8年目。2学年主任、理科(化学)。

山形県立山形東高校 全日制/普通科・探究科(理数探究科・国際探究科) / 共学 / 1学年約240人 / 2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、北海道大、東北大、山形大、東京大などに146人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大などに延べ100人が合格。

※プロフィールは、2021年3月時点のものです。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月~金8:00~18:00/土8:00~17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17

1KVOL1